

# Jazz Today<sup>®</sup>

Monthly Free Magazine

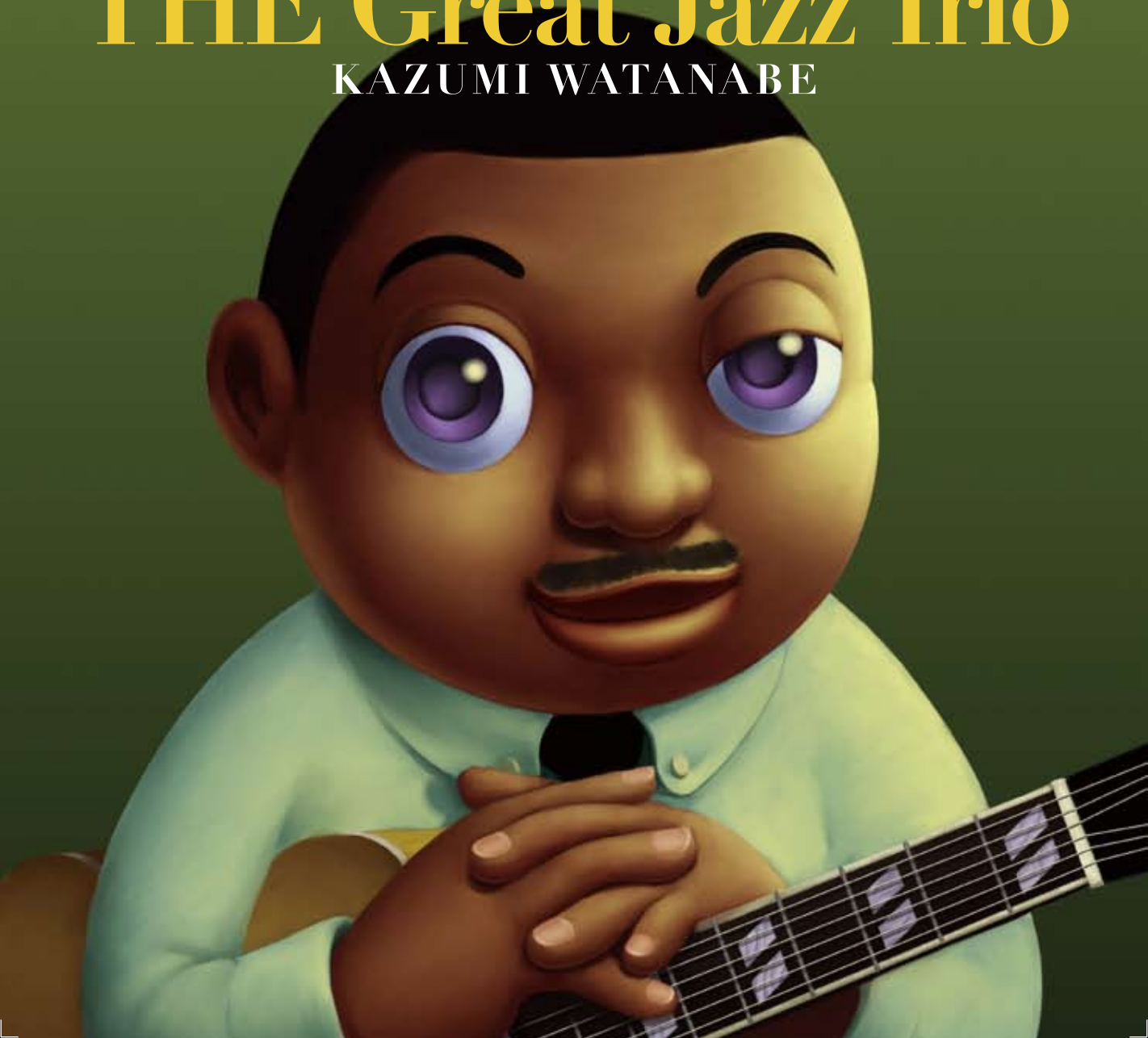
2006.12 **No.32**



Makoto Nakamura

## THE Great Jazz Trio

KAZUMI WATANABE



本誌編集長の当方見聞録!

# 06/07 読書の音楽の旅、の渡し。

text by 末次安里



## 「類化性能」が耳の幅を広げる。

前夜(11月7日)からNHK教育テレビ「知るを楽しむ・私のこだわり人物伝」の中沢新一編「折口信夫～古代から来た未来人」が始まった。本誌が各店頭で並ぶ頃には全4回の後半を迎えているはずだが、何か惹かれる想いが感応した方はぜひご覧いただきたい。折口信夫(釈道空)・武満徹・吉増剛造、この三者の(遅ればせながらの)再評価が来年あたりから加速する、というのが(LEONの潮流とは対極にある)本誌編集部のおぼろげな予感である。予言ではない、そんな気がするのだ。そう書いているじぶんの背後からは宮沢昭の'69年の秀作『いわな』が流れている。次いで同じく「昭和ジャズ復刻シリーズ」の一枚としてCD化された宮沢の『木曾』を聴き、古野光昭(b)の最新作『ISE 伊勢』をかけるつもりだ。07年の元旦に60歳の還暦を迎える古野と先日歓談した折、この日本ベース界の重鎮はこんな感慨を口にした。「高校に入って初めて電車や自転車で市街地に通い出すわけですが、校内マラソンの時は伊勢神宮の

周りを走るんですよ。それが印象的でね。だから僕の中ではあんまり観光的なイメージの伊勢はないのですが、今は全国的な傾向のご他聞に漏れず、商店街も廃れまくっちゃってね。僕が当時の仲間たちとバンドをやったり、にぎやかに騒いでいた頃の雰囲気はもうまるでないですね…観光に来る人たちはそういう所にはまず寄らないでしょうし…。そんな古野の待望2ndアルバム『伊勢』は、ディランの〈マイ・バック・ページ〉で若き日々への追想を誘ない、オリジナルの〈故郷へのオマージュ〉で幕を閉じる、美しくも静かな情熱を感じさせる一枚。07年リタイア世代は感涙必至のお奨め盤であり、本誌が来年からの連載を画策中の「日本を描いた好盤」(仮題)に大いなるヒントを与えてくれた作品である。折口信夫は「類化性能」というアナロジーを駆使した偉業を多く遺したが、ジャズを旅する本誌の指針もその「性能」に負っていききたい。



BULL TROUT(いわな) / 宮沢昭  
THINK! THCD-026



木曾 / 宮沢昭  
THINK! THCD-031



伊勢 / 古野光昭  
M&I Jazz MYCJ-30402

## 「予想外ゲリラ」は07年も神出鬼没か。

今年のJazzTodayプロジェクトの部外活動というか号外的イベントとしては、4月に東大駒場キャンパス内で連夜6日間に渡って開催した『JAZZTODAY in Komaba 2006』(＠駒場小空間)が思い出ふかい。これは略称・ラブかな(制作チーム「ラブレター・フロム・彼方」)の提案を受けて制作面での協力を行なった初の試みで、中島ノブユキ project や大友良英、ベテラン勢の佐藤允彦トリオから注目株の万波麻希まで、あるいは福岡ユタカ+ホッピー神山などの先鋭的な布陣が勢ぞろいしたゲリラの宴となった。その主旨は、新入生歓迎の部活動誘期で盛り上がるキャンパス内でJazzTodayなライブを行ない、いまだジャズへの先入観も芽生えていない1年生たちに「いきなり今日のジャズを」ぶつけて、暗中模索な未知との遭遇を体験してもらおうとのコト。しかも「入場無料」という無謀な企てが功を奏したのか、その感想は十人十色ながら反響の声々はネット上で飛び交った。敢えて『2006』と謳った以上、

『同2007』も開催する意気込みで関係者は密かに燃えているが、さて来春はどんなかたちで宴がくり広げられるのだろうか。その時期の告知に注目を。

また、7月には「JazzToday 臨時増刊」と銘打って『「発芽する音」の記録。』という小冊子も急拵えした。これは山本精一・勝井祐二(ROVO)プロデュースの『アルゼンチン音響派スペシャル・ユニット〜ジャパン・ツアー2006』が開催された6会場のみで無料配布された全16頁仕様のミニ写真集。内容は、山本・勝井の二人がアルゼンチンに乗り込んでフェルナンド・カブサッキら現地の先鋭ミュージシャンと即興録音を行なった際の画像記録選集。その結晶アルバム『Chichipio-Buenos Aires Session Vol.#1』『IZUMI- 同 #2』の副読本として、あるいは本誌愛読者(というか急増中らしいバックナンバー蒐集家!?)には垂涎の一冊かもしれないが残部僅少ゆえ入手機会はほぼ絶望的か…ゲリラ行為は本誌の常!



## 表紙が語る編集指針。

創刊1年目はewe(イーストワークスエンタテインメント)一社単独のPR誌として号を重ね、明けて2年目からは賛同レベル参加型の無料マガジンとして再出帆を航海中の本誌。3年目に突入した今年最大の事件はなんといっても「タジマ・ヤスタカ」起用による表紙の刷新化だろう。(少し裏話を明かせば)これはリニューアルを敢行してから不覚にも気づいた大衆心理なのだ…「ジャズの裾野拡大」を旗印に毎号、アーティストの撮り下ろし肖像写真で表紙を飾ってきた本誌なのだが、その狙いはもちろん「一般読への露出機会が少ないジャズメンたちをもっと知ってもらおう!」という点。が、そんな編集子の企画意図と(ジャズへの扉を前にして躊躇している)入門予備軍の方々の間には心理的齟齬があったらしく、よくよく考えてみたら「よく知らない人が表紙の本はタダでも手にしない」というのが想定外の反応だったようだ。これはもちろん歴代で御登場いただいたアーティストたちの力量不足(?)を問う案

件ではなく、一重に編集子の判断ミス。その発想の失態度は「タジマ画」定着後の女性読者層の急増や、バックナンバー入手方法の問い合わせ(=無料配布誌の性格上、各店頭での入手以外は一切応じられませんのであしからず)が連日と寄せられている事実からも歴然である。もう少し本音を綴れば、本誌がJazzTodayを冠している以上は「現在進行形の、今日のジャズ」を積極的に紹介していくのが基本中の基本。流れの必然でJazz Classicsを掲載するコトはあっても、いわゆる手を変え品を変えの墓掘り企画はやらないというのが本誌の原則である。が、巨星たちの偉業に対するリスペクト心は人一倍抱いているつもりだし、その想いの表われというか、そんな読者の飢餓感を満たして余りある「顔」がタジマ画伯による表紙だと思っていただければ幸甚だ。まずは手に取ってもらい、ジャズへの扉を開けていただくコトが一番の目的ですから。

## ラジオ番組に続き 本誌のサイトが開店！

今年7月から衛星デジタルラジオ放送局「MUSIC BIRD」(<http://www.musicbird.jp>)内のジャズ専門チャンネルでパーソナリティーを担当している。番組名は『JazzToday(Radio edition)』といい、隔週土曜日22:00～深夜0時で放送中(翌週再放送)だ。内訳は最初の90分がゲストを招いてトークと話題の新作を紹介、残りの30分で新着の注目曲を中心にかけられている。これまでに太田剣(sax)、坪口昌恭(p)、村上ゆき(Vo)、谷口英治(cl)、市原ひかり(tp)、川上さとみ(p)、芳垣安洋(ds)、中村健吾(b)、鬼怒無月(g)、村上寛(ds)、という様々な担当楽器奏者に御登場いただき、アルバム制作秘話や意外な人脈話、あるいはデビューからの足跡談などを語ってもらった。なんでも同番組は一部のコミュニティFM局でも同時放送中らしく、FM多摩(G-WIND)、横須賀FM(FMブルー湘南)、FM軽井沢が受信可能な地域の読者諸兄は一度耳を傾けていただくと嬉しいかぎりだ。



Sara Smile / 市原ひかり  
ポニーキャニオン PCCY-60003



Radio - Acoustique  
Masayasu Tzoboguchi Trio  
Flyrec FLYCD-09



夢で逢いましょう / 村上ゆき  
Silent/POLYSTAR PSCR-6174

やはり「文字(芸)の限界」というか、音楽誌の編集者たちが寝床で囃りするのは「紙面では実際の音を聴かせられない…」という事実。付録CDという奇策もあるにはあるけれども何かと制約事項が多くてなかなか難儀。やはり誌名を冠したラジオ番組とのメディアミックスは裾野拡大の面でも魅力的なわけだが、本誌では近々「もう一つのメディア展開」を画策中で、それが待望の『JazzToday 公式サイト』のオープンなのである。最大の売りは本誌で紹介した新譜や話題作の大半が「全曲視聴」できて「アフィリエイト」での即購入も可能となる点。1曲1分足らずでも「さわり」を聴いてもらえるのは嬉しい進歩だし、四半世紀を数える紙の編集者としては悲願成就級の構想がようやく実現。現在はテスト中ゆえ、正式なURLは次号で掲載しますのでお楽しみに。たとえばココに掲載のジャケ写を眺めつつ「私の好みかしら!？」とやや躊躇気味のアナタ、次からは自分の耳で吟味可能!



ASA-CHANG & 巡礼 / 花  
IDCH-1002



自由 / 衝和ショッキング  
GTCR-05012



THE BEST OF BOSSA COVERS  
COVER LOVER PROJECT  
GATE RECORDS GTCR-05030

## 音楽が結ぶ新たな好奇心。

ある音楽との衝撃的邂逅が、その後の読書傾向(選書)を大いに左右するという「音/読」連鎖が稀に生じる。(これは本誌上でも2度ほど連呼したか) その意味でも個人的に今年最大の収穫作品は(5年遅れの出遭いではあったけれども)、ASA-CHANG & 巡礼の『花』というアルバム、とりわけ表題曲の存在を知ったコトである。きっかけは文化デリック編著『ポップ・カルチャー年鑑2006』に収録されたASA-CHANGのトーク上で『続・藤井貞和詩集』を知った際の衝撃が語られており、その数行を読んだじぶんはじぶんで翌日さっそく秋葉原のTOWERで『花』を購入して一聴途上で悶絶した次第。連鎖の詳細は省くが、ASA-CHANGの音楽を知る→藤井貞和の詩篇を目下再読中→折口信夫の関連本を書架から引き出す→中沢新一の未読本を日々購入中→ASA-CHANGの新作サンプルが届く…きっと来年の桜が咲く頃、じぶんの脳内の花園は「凄い日本語」で満開状態だと予感する。

さて、次は前掲の「類化才能」とはチト違う部類の話だが、いわゆるJAZZ以外の系列でも「エエもんはエエ!」と気まぐれに予想外紹介しちゃう本誌編集子の連呼がきっかけで生まれた最近の出会い話。本誌の熱心な愛読者ならば、26号の編集後記で「立て続けに“驚愕の新星”と遭遇したOutthere 休刊時以来の衝撃バンド!!」「今後はこいつら!」と筆者が絶叫紹介していた「衝和ショッキング」のコトを御記憶でしょう。来年は絶対ブレイク必至!!って再度綴っておきますが、じつは先日「あの衝和ショッキングを紹介いただいたレーベルの者なんです…」という女性担当者から電話が入って後日面談を。その際に頂戴したのがココに掲載のBOSSA COVERSなのだが、聞けば「ヴィレッジ・ヴァンガードでバカ売れてまして(笑)」という人気作のベスト盤。生憎、行動範囲内にヴィレッジヴァンがないので認識ゼロだったが、さっそく聴いた感想は「こりゃ売れるわな、可愛いもん!」。

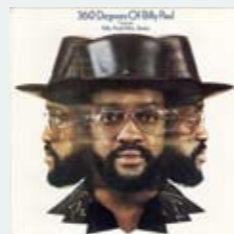
## 自力で歩けば「鬱」にも当たる!?

入稿週間直前で読んだ本の中では、細野晴臣の『アンビエント・ドライバー』(マーブルトン刊)と、松本哉著『永井荷風という生き方』(集英社新書)がかなり面白かった。年中無休でほとんど東京を離れられないじぶんにとっては2冊とも精神性においては立派な“旅本”と呼べる好著。今年は「ハンク・ジョーンズの追っかけ」よろしく一関ベイスシーでのライブを堪能するために現地に一泊、本誌入稿の追い込みで宇都宮のデザイン事務所数泊、先日は仙台の音楽関係者と面談するために日帰り出張をしてきたが、ふだんのじぶんにとって「小さな旅」と呼べるのは(先月号のJTコラムで明かした如く)江戸川河川敷のサイクリング道を連日10キロ往復するというトホホな行程のみ。で、前掲の荷風本を読んでいたら、「散策の果てに」という章で次のような数行と邂逅して、単独歩行中に「悲しいほどお天気」気分が突如襲われる理由が分かった。<人は自力で歩いてみれば自分自身のすべてを知るのではな

かろうか。足のみならず全身の筋肉、視力、感受性、さまざまな感慨、生きてきた歳月の長さや重み、残された体力、気力、経済力、世間の雲行き……。先々の幸不幸まで見えてくるかもしれない。う〜む、けだし名言。が、現代人の場合というか、少なくともじぶんに関してはそんな散策中の心模様を随分とiPodのシャッフル音源群に救われているが、最近の再会曲から「戻ったらアルバム全体を聴きなおそう!」と思って書庫から出してきた作品が掲載の3枚。今、なぜ、これなの? どうして…と、問われても「そこに心を奪われたから」としか応えようがない。そういえば最近歩きながら「たぶん生涯聴き続けるだろう極私的名盤10選」だの「死ぬまでに再読したいマイ名著10冊」とか「高価買取にも屈しない写真集10傑」なんて、そんなコトばかり考えているな、じぶんは。「私のカラダを通り過ぎた」云々を数えるほど老練はしてないけど(笑)。



ディランにて / 西岡恭蔵



360ティグリス・オヴ・ビリー・ボール  
ビリー・ボール



ブルートで朝食  
オリジナル・サウンドトラック

## ある意味「罪」な主宰者の存在。

さて、06/07の越年待望企画としてはキップ・ハンラハン主宰のアメリカン・クラヴエ、その作品群の「reissue SACD リマスタリング CD/SACD ハイブリット仕様」登場というのが間近である。これは初めて明かすOutthere誌の秘話だが、(ある意味で本誌の原型ともいえる同誌を)なぜ、号を重ねる度に膨らむ借金をしてまで継続したかといえば、このアメリカン・クラヴエという意固地で屈強で豊穣で貧乏なレーベルが存在し、「権力の外側」での芸術的営為を持続していたからと言えなくもない。少なくとも一因ではあるし、キップの音楽性に魅せられたのは当然として、JCOAに刷り込まれた世代のじぶんと彼が同い歳だったというのも笑い話を越えた次元での共感に結びついている。Outthere創刊に向けての斯界事情を調査した際に初めてアメリカン・クラヴエの存在を知った。かつてTDKがディストリビュートしていた時期は個人的に不勉強で出遭い損ねていた。

この数年間も正直なところ、全作品を具に聴き込んできたわけでもない。キップと彼の仲間たち、その幅広い人脈と多彩な音楽性の秘密に迫ろうと背表紙を目にしては関連本を蒐集してきたが、どれも読了には至っていないまま、葉の位置が先へと進まない。が、今回のreissueの波には乗り遅れまいと密かに決意し、基本中の基本であるイシュメル・リードの代表作『マンボ・ジャンボ』(国書刊行会)を先日から読み始めた。来年のわが読書畑にはジェス・グルーの嵐が吹き荒れるに違いない。大いに結構、「音/読」の洪水に浸りたい所存である。

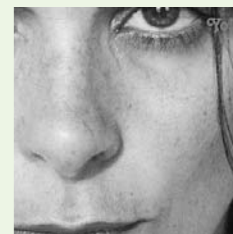
【前号の訂正とお詫び】  
以下を訂正し、関係各位に陳謝致します(本誌編集部)。  
(1) 表紙の名称表記を「Naryoshi Kikushi」と誤植→「Naryoshi Kikuchi」と訂正致します。  
(2) グレース・マーヤの記事中(p.5)、店名を「Jz.Blood」と誤植→「Jz.Brat」と訂正致します。



TENDERNESS  
EWAC-1016



Coup de tête  
EWAC-1007



Yo!  
EWAC-1025



## ハンク・ジョーンズに 会ったんだ!

連載第5回

瑞々しいザ・グレイト・ジャズ・トリオの「源泉」を訊く!

聞き手：JT（本誌編集長）



88の鍵盤を華麗に弾きこなす当年88歳の現役ピアニスト、ハンク・ジョーンズ。わが国では「ザ・グレイト・ジャズ・トリオ」のリーダー（以下ではGJT）としても人気を不動のものとしてきたが、今年で結成30周年を迎えた可変型同トリオのメンバーに招聘されたのはジョン・パティトゥッチ(b)とオマー・ハキム(ds)の二人。この新生トリオは新譜『星影のステラ』の吹き込み直前に、9月の東京ジャズ2006（@国際フォーラム）に二夜連続で登場し熱い声援を浴びていたが、その二日目の最後には鳴り止まぬ拍手のなかで「予想外競演」が即席実現。重鎮ハンクの発案で急速、同トリオの前に素晴らしいデュオ演奏を展開したチック・コリアと上原ひろみの二人に加え、前夜の熱演が好評を博したオースティン・ペラルタも参加しての4世代ピアニストによる重奏&連弾のサプライズが提供されたのだ。そこで今回は、本誌好評連載中『ハンク・ジョーンズに会ったんだ!』の拡大版としゃれ込み、トリオの新譜話以外にも思いつく質問を幾つかぶつけて語ってもらった。

※

JT: あの夜のサプライズ競演は事前の企画があったわけではないか?

HJ: 「そう、あのグランド・フィナーレは元々決まっていたわけではなくて、日本のスタッフから『どうでしょう?』とその場で促されて、『面白いね!』と僕から皆さんに提案したんだけど、誰も帰らずに残っていてくれたから良かったよ。誰一人からも断られるコトなく、皆が快く賛同してくれたしね」

JT: おかげでハンク・ジョーンズmeetsチック・コリアという夢の連弾も堪能できました。

HJ: 「チックと同じステージに立つコト自体が初めてだったしね。それで思い出したのが8年程前にこれも東京での出来事なんだけれども、僕がミルト・ジャクソンと共演した一週間というのがあって、そこにふらっとチックとジョン・パティトゥッチの二人が顔を出してくれて。チックとはあれ以来の再会なんだ。彼が他のピアニストと共演するステージはやはり同じ頃に観ていたんだけど…」

JT: 今回の新譜はその時のもう一人、ジョン・パティトゥッチをGJTに迎えられて、何かと縁ぶかい東京でライブとレコーディングをなさったわけですね。

HJ: 「ジョンとの共演は今回が初めてというわけではないけれども、彼はしっかりとした速弾きを正確に出来る、本当に素晴らしいテクニックの持ち主だからね。どこか亡くなったニールス・ペデルセンを彷彿とさせるような、彼に通じるようなクオリティーを持っているし、実

際にハーモニーも良く、耳も抜群だから誰が何をやっているかを非常に注意深く捉えて、その場その場にフレキシブルに対応できるプレイヤーなんだ。だから共演していても本当に楽しいし、“美しさとは何か”が心底分かっている人間だと思うな」

JT: 次いでオマー・ハキムの印象をお聞かせ願えますか?

HJ: 「OK。彼は動作の一つひとつがとてもアクティブで、彼自身が自分のやっているコトを心底楽しんでいるというのがひしひしと伝わってくるアーティストだよ。その時の自分の感情や表情を非常に豊かに表わすから、それを観ているだけでもよく伝わってくる。それがもちろん演奏にも込められているから伝わるし、いい意味でこちらの気持ちも引き上げられるという、そんな素晴らしい才能を持った稀有なドラマーだよ」

JT: で、同じ1959年生まれの両逸材を、1918年生まれのハンクさんが鼓舞しつつ(笑)。

HJ: 「いやあ、彼らは本当に世界最高峰のレベルにいる二人なので、彼ら二人とやれるのであれば仮にあとの一人がダメでも(笑)、どうなるかが演奏が素晴らしいはずだから。そもそも初代GJTだって、ロン・カーターとトニー・ウィリアムスという当時のトップレベルが二人いて、僕の場合は幸運にも、たまたま横を通りかかったら『ああ、ピアノはあいつでもいいや』って声をかけられたようなものだからね(笑)」

JT: そういうご冗談好きも若さの秘訣ですね(笑)。いい意味で「ミスマッチの妙」とも称されるGJTの場合、ドラマー選びの基準というのはどの辺りでしょうか?

HJ: 「そういう質問を投げられて改めてこれまでのドラマーの変遷史を省みると、こうは言えるかな。GJTで毎回選ばれているドラマーというのはとても演奏が華麗でダイナミック。要は視覚的にもお客さんを愉ませるコトが出来る、派手な体質の“魅せるドラマー”が多いね。尚且つというが当然、派手なばかりでなくきっちりとしたリズムが叫ばれる優れたドラマーであるという点は歴代を通じて変わらない基準ではあるかもしれない」



※

JT: しかも今回は〈ソング・フォー・マイ・ファーザー〉でオマー・ハキムの歌声まで堪能できる予想外企画まで用意されていますね。

HJ: 「恥ずかしながらというか、あの曲に歌詞があるというコトを僕に教えてくれたのはオマー自身なんだ(笑)。で、それは本当に“理想の父親像”を描いた的確な歌詞だったのでヴォーカルを入れてみた次第でね。GJTとしては初の試みだけど妙案でしょう」

JT: ええ、いいアクセントが効いてますね。ところで、さらに輪をかけたような話題が渡辺貞夫さんとの30年ぶりの共演吹き込みなんです——じつはGJT結成後1か月に当たる時期の共演録音(1996年5月)、貞夫さんの『アイム・オールド・ファッションド』への参加がGJTとしては初レコーディングなんだそうですね。

HJ: 「そうなんだ。今回は4曲吹いてもらったんだけど、その〈アイム・オールド・ファッションド〉も入っているんだよ。30年前との違い? うん、今回はちゃんと楽譜があったコトかな(笑)。当時は口頭での打ち合わせだったけど、今回は楽譜を前にして事前に構成や展開を決めるコトが出来たのが違いといえば違いだね。サダオの演奏は30年前と変わるコトなく、というかさらに素晴らしくなっていると正直思ったよ」

JT: ハンクさんから観て貞夫サウンドはどう映ってますか?

HJ: 「本当に素晴らしい、の一言。他のプレイヤーとの最大の違いという点でいえば、彼はちゃんと良い音色で自分のスタイルにふさわしいものをきちんと持っているという所だ。もちろんサダオ自身もチャーリー・パーカーがとても好きで、かなり研究している。他にも世界中にパーカーの音色が好きで一度はアイドル視をして、少しでも近づいて自分のものにするために真似をするプレイヤーは後を絶たないわけだけど…チャーリーのテクニックとかの模倣は出来ても、音色が必ずしも近づけていない人が多い。そんな中で音色も含めてチャーリー・パーカーのスタイルをちゃんと自分のものとし、さらに自分のも

のを加えられるという意味でサダオは素晴らしいと思う」

JT: 30年前の録音メンバーで国内ツアーとかはなさったんですって?

HJ: 「いや、当時は機会がなかったんだ。今回のアルバム参加のお返しに、サダオの恒例ウィンター・コンサートではGJTがバックを務めさせてもらった。30年経ってようやく、その環境が整ったという次第なんだよ(笑)」

JT: そもそもハンクさんが初めて日本の土を踏んだのはいつで、何の機会なんですか?

HJ: 「最初は1955年。当時のベニー・グッドマン楽団の極東ツアーが企画されて、ラングーンやシンガポールなどを廻る流れの一つに日本が含まれていたんだ。それが最初でね、シンガポールでクリスマスを過ごしたのを今でもよく憶えているよ。そうそう、当時泊まったのも今回の東京ジャズと同じ帝国ホテルだったから、凡そ半世紀ぶりに“戻ってきたな”と(笑)、そんな感慨が沸いたね」

JT: 30年ぶりの再会と50年ぶりの帝国ホテルですか(笑)。来日回数は憶えていますか?

HJ: 「正確に数えたコトはないけれども最低でも20回、いや25回は来ていると思うな」

JT: というコトは概算でも「隔年ペース」で日本に来ているわけですね。

HJ: 「ハハハ、そうなるかな。もちろん毎年は来ていないし、間が数年空いている時期もあるけれど、そのぶん年2回も来たり、今年は12月の来日で3回目になるからね(笑)」

JT: 12月にもお会いできれば、僕が顔見知りの日本人アーティストと再会する回数よりも余程頻繁に面談したコトになりますよ(笑)。

HJ: 「そうだね、今年は3回だものね(笑)」

JT: 最後に日本のファンの皆さんに向けて、新譜の自己PRをどうぞ!

HJ: 「11月22日の発売には早起きして、朝一番でCDショップに向かい、最低でも一人100枚は買ってください! どうぞ、ヨロシク(笑)」

## 星影のステラ / The Great Jazz Trio

GJTの新機軸!  
ゲストに渡辺貞夫を向かえ、新たな試みにも挑戦!



Eighty-Eight's VRCL-18835  
Hybrid Disc (CD&Super Audio CD)  
¥2,835 (税込) 2006/11/22 RELEASE

01. スウィート・ジョージア・ブラウン
02. 星影のステラ ☆
03. オールド・フォークス ☆
04. ソング・フォー・マイ・ファーザー
05. イン・ア・メロウ・トーン
06. アイム・オールド・ファッションド ☆
07. 四月の思い出
08. ティープ・イン・ア・ドリーム ☆
09. スクラップル・フロム・ジ・アップル
10. トラベリン・ライト

■パーソネル  
ザ・グレート・ジャズ・トリオ  
ハンク・ジョーンズ (piano)  
ジョン・パティウッチ (bass)  
オマー・ハキム  
(drums,vocal on "Song for My Father")  
スペシャル・ゲスト: 渡辺貞夫 (参加楽曲 ☆)

渡辺貞夫クリスマス・コンサート  
with GJT (H・ジョーンズ、D・フィンク、O・ハキム)

12/11 札幌キタラホール  
12/16 大阪ザ・シンフォニー・ホール  
12/13~15 名古屋ブルーノート、  
12/17 東京オーチャード・ホール



## 香津美、話題のギタールネⅢを語る。

Vol.6

# 夢の砂漠をはるばると。

聞き手: @suetsugu

Sue: 本作の最後を飾るのは佐々木すぐるの〈月の砂漠〉です。この選択には何か意図があたりて?

渡辺: そもそも自分が好きな曲であるのと、この曲を弾いて思うのは、なんかギターというもの知らない渡辺香津美の子供の時代というものがあって——金と銀との鞍に王子様とお姫様が乗って砂丘を越えてゆくという御伽噺のような、一種漠然とした「いい夢」のようでも「悪夢」でもあるような(笑)、そのイメージというものになんか今、自分がギターを弾くことでそこにふうっと乗られるというかね。自分のなかで時間を越えられるという感じがして、そういうのはいわゆるジャズ・チューンでは無理なんですよ。

Sue: ああ、なるほど。分かる気がします。

渡辺: 要は渋谷生まれで、日本で育った渡辺香津美少年からしてみると、やはりチャーリー・パーカーやコルトレーンを聴いても子供の頃の憧憬や情景というのは何も出でてこないんですよ(笑)。ところがこの曲を聴いていると自分もふわあっとしてきて…なんか公園で砂遊びをしていて、遅くなると辺りが真っ暗になってきて、「怖い人があるん

じゃないか…」と思いながら慌てて家に帰っていくというか、そんな不安の気持ちがある。そして今度は眠りについた時に安らぐという、そんな御伽噺のページみたいな気持ちにさせる曲ですよ。ノスタルジーといえそうですが、そういったものはやはりこういう作品にしかないから、手繰って思い出せるというか、そういった自分のなかの“秘密の小窓”をチョット1曲、アルバムに入れておきたかったわけです。

Sue: ジャズ・チューンのほうはMo'Bobでもやられている〈クレオパトラの夢〉、それから〈チュニジアの夜〉と〈星影のステラ〉も入ってますね。この3曲に関してはどうですか?

渡辺: 前作の「夢」(Guitar Renaissance II)の時もそうなんですが、なにしろ何も考えずにスルッと自分が弾いて愉しめるジャズ・チューンは必ず入れておこうという、企画的な面もあってね。それで今回は「翼」ということもあるし、いわゆるバリバリのジャズ・チューンよりはもう少し映画音楽的なイメージのものということで〈ステラ〉を選んだりとか。徐々に〈月の砂漠〉のほうに近づいてゆくので〈チュニジア〉とかね。そういうものもある。そうやって無理やり自分の中で選曲の意味合いを引っ張ってきて(笑)、それこそやりたい曲はいろいろとあるので今回はどれを入れるかという場合は他の曲との兼ね合いもありますね。

本誌: ギタールネもこれで3作目を数えます。香津美さん自身の感慨を最後に聞かせてください。

本誌: やはりⅢまで続けてきたことでゲストの方も呼べたし、ギタールネッサンスの可能性がぐんと広がって、自分としては「ああ、いろいろなことが出来るんだな」というね。それがⅢで出来た、という想いがありますね。

本誌: 作りながら変わる面もありますか?

渡辺: いや、モロ、変わるんですよ(笑)。2作目あたりまでは“太平洋ひとりぼっち”というか、ギター一本持ってどこまで弾けるかみたいなね、そういうのもあって。実際、生で弾いた演奏というのはそれなりの仕込みというか、音楽的な体力作りをしていかないとならないわけ。技術的にも音楽的にもそれをやらなければいけないので、それなりに大変であるけれども、ずっとギターを弾いていられるから愉しくもあって(笑)。だから今回のレコーディング時も、レコーディングにかこつけて、2時間ぐら早くから「おい、早く入るぞ!」とスタッフと先に入ってもお思う存分、「練習」が出来たというね(笑)。ここいらへんで“外側との接点”というものを作るようなアルバムにしていけないとやはり、10作目までずうっと独りで弾いているのもチョット辛いかなあと思ったし(笑)。友だちいないのかという感じで(笑)。まあ、それは冗談ですけども、「ああ、ギタールネッサンスでもいいんだな。ゲストもありなんだな」と…いや、正確には今回は「ゲスト」というよりも各曲で、それを最大限に生かすためにコラボレーションしていったものの集まりという感じになれたんで、今回はそれがヨカッタですね。

—完—

## Guitar Renaissance III <翼> / 渡辺香津美



EWSA-0125 ¥3,000 (税込)  
2006/06/07 Release

01. 虹の彼方へ (Harold Arlen)
02. クーラント 無伴奏チェロ組曲第1007番より (J.S. Bach)
03. 天国の階段 (Jimmy Page / Robert Plant)
04. クーラント "FROM HEAVEN" (J.S. Bach)
05. 翼 (Toru Takemitsu) / 05. MOMO (Koko Tanikawa)
07. 星影のステラ (Victor Young)
08. シェルブルの雨傘 (Michel Legrand)
09. IF I FELL (John Lennon, Paul McCartney)
10. クレオパトラの夢 (Bud Powell)
11. アストロ・ジャンプ (Kazumi Watanabe)
12. チュニジアの夜 (Dizzy Gillespie, Frank Paparelli)
13. 月の砂漠 (Suguru Sasaki)

渡辺香津美: guitar / 中牟礼貞則: guitar on tr.7  
古部賢一: oboe on tr.8 / 吉田美奈子: vocal on tr.5



9回目の表紙は「ギタリストのリーダー作をお願いねっ！」と、編集長権限でタジマ画伯に初めて、(いや、キースがあったから)、2回目のリクエストを。

# タジマ音楽堂

連載 9

「結構、難儀かな…」とか言いながらもさすがは画伯、アップしてくれば、こんなにご〜んなに素敵な秀作群でコラムもリンクさせてくれました。GOOD!!

絵と文  
タジマヤスタカ



フィンガー・ペインティング  
〜ザ・ミュージック・オブ・ハービー・ハンコック  
マクブライド・ペイトン/ホワイト・フィールドトリオ

今月の表紙は名盤『インクレディブル・ジャズギター』、モノクロジャケットのウエスがカッコいいのですがイラストにするとちょっとサミシーで色を付けてみました。オクターブでつとつと奏でられる〈水玉模様と月の光〉(いい曲、いいタイトルだ)とか聴いているとも〜沁みます、沁みます。それにしてもオクターブするのは実に強力な和音です。

さてさて、こちらのページもギターからみの3枚で。

ニコラス・ペイトン(p) マーク・ホイットフィールド(g)  
クリスチャン・マクブライド (b) 1997年録音

VSOPのタイトル曲から始まって〈テル・ミー・ア・ベッ

トタイム・ストーリー〉、〈チャンズ・ソング〉、〈ワン・フィンガー・スナップ〉……4ビートからファンク系、映画のサントラまで幅広くハンコックの名曲の数々をこのトリオで演奏している企画物なのですが、よくまあ3人だけでこれだけ色々なタイプの曲がこなせるなあと感心させられます。ハンコックの曲って一筋縄じゃいかない進行、展開の曲が多いですがそこは優れた感覚を持っているこの3人、ハイレベルだけけど妙な気負いは無く、いい感じにうまい事まとめあげております。

〈カメレオン〉とか〈スライ〉などは「え、アコースティックのトリオでこういうタイプの曲はど〜よ?」みたいに思ったんですがこれまたカッコいい! 仕事中のBGMなどにもほど良い感じで結構オススメ。



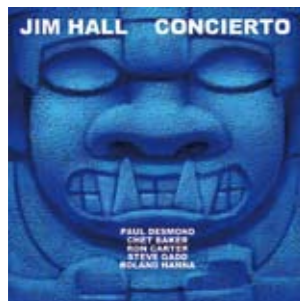
フィーリン・ザ・スピリット  
グラント・グリーン

「んぬあ〜!」な表情のジャケットがいいですね。グリーン音楽のルーツ、ゴスペルを題材にした人気盤。「これでもかあ!」とあくまでも粘っこく黒く迫るグリーンに、どこかインテリさんの目で全体を見回しながらバッキングする洗練された黒さのハンコック。

グラント・グリーン (g)、ハービー・ハンコック (p)  
ブッチ・ウォーレン (b)、ビリー・ヒギンズ (ds)  
カーヴィン・マッソー (tamb) 1962年録音

ハッピーな感じの1曲目〈ジャスト・ア・クローサー・ウォーク・ウィズ・ジー〉やズンドコリズムに載せてテトテとテーマを奏でるグリーンがなんとも言えない2曲

目〈ジェリコの戦い〉。「ブロックコードって何?」とばかりにあくまでも単音で歌い上げ、繰り返しのフレーズを執拗にテケテケテケテケテケテ……、バクも「そうそう!」とばかりに合わせ盛り上げるこのくださが楽しい。でも3曲目の〈誰も知らない私の悩み〉などを聴くとただアーシーなばかりではない、モダンな語り口、なんとも表情豊かで繊細な表現に唸ります。4曲目の〈ゴードアウン・モーゼス〉や5曲目〈時には母の無い子のように〉なども、テーマだけを聴くと〜んか昭和のうらぶれた場末の酒場の悲しい8ビートって感じですが、アドリブに入るとあらカッコいい! グリーンとハンコックが触発し合ってモダンかつファンキーな素晴らしい応酬を聴かせてくれます。イエ〜。



アランフェス協奏曲  
ジム・ホール

70年代、フュージョンの嵐がビュ〜ビュ〜吹きまくっていた真只中で録音された貴重な主流系のヒット作。このメンバー、レーベル(CTI)ならではのソフトな風合いがあるので、その辺が'70年代という時代と多少折り合いをつける事ができた感じなんかな。

チェット・ベイカー (tp) ポール・デズモンド (as)  
ローランド・ハナ (p) ロン・カーター (b)  
スティーブ・ガッド (ds) 1975年録音

アルバムは名曲〈ユー・ビー・ソー・ナイス〜〉から始まりますがなんとも不思議なふうわりとした感覚。ほど良い響きの4分音符のシンプルなレガートをベ-

スがちょっと食いめのウォーキングでふいふいんと引張る心地良いスピード感。その上にギターが丸く長い音でメロディーを奏で、これまたふわふわと漂うようにサクサクが入ってきてトランペットと絡み合います。この不思議な浮遊感、軽さみたいなのはアルバム全体を通して感じられるものですが、決して軽々しいわけではなく、そのノリは軽快ながら強靭さも持ち合わせています。目玉はやはり〈アランフェス協奏曲〉と言う事になりますが、ど〜もこのメロディーを聴くと僕の世代なぞは、必殺仕事人!とか代打杉浦!とかそういうシーンが頭に浮かんでいきません。僕のような泥臭いやカラには多少綺麗すぎるし〜長い。適当に飛ばして、小粋に楽しい〈ロック・スキップン〉を聴きます。



中村真  
チャリンコ de ソロピアノツアー Vol.1

## トラブルを乗り越えて。

text by 中村真



雨の中、富山県水見市に到着したところ。



只今、バースト修理中。



七尾のMoritatでのライブの演奏シーン。

2006年5月9日

奇麗な風景を、ゆっくりと楽しみながら、風を感じ、花の香りを嗅ぎ、五感全てを楽しませることの出来るチャリ旅。浮世離れた気持ちのいい時間を過ごす。でも、必ずしも楽しいだけではないチャリ旅。

新潟県の糸魚川を出て半日程漕いだ所。お昼ご飯のいつものマカロニパスタを食べ終え、予定通り新潟市に向けて自転車走らせていたとき、バーン!!! 激しい破裂音とともに自転車のコントロールが利かなくなる。パンクだ。

チャリ旅に限らず、ちょっと遠くに行くサイクリングをする時でも、パンク修理は出来るにこしたことはない。いや、出来なくては旅は出来ない。メカに強うほうではないが、なんとかパンク修理だけはマスターしている。が、今回のパンクは何か様子がおかしい。よく見るとタイヤが擦り切れ、バーストしていた。僕は今まで1万キロ以上旅を続けてきたが、タイヤがバーストしたことは一度も無かった。バーストしたタイヤは修理出来ない。破棄するしかない。しかし、ここは新潟県のとある片田舎の町。自転車屋等あるはずも無い。次の大きな町は上越市。まだ後30キロ以上もある。押しで行ける距離ではない。一体どうしたらいいのだ…。

途方に暮れたが、自分でなんとかしなくては。バーストした部分の裏にガムテープをあてて、チューブがはみ出さないようにして空気を入れてみることにした。なんとか成功。ちょっとした段差の衝撃で再びバーストするかもし

れない。そーつと、そーつと。なんとか無事上越に到着。

旅にトラブルはつきもの。今までにもたくさんのトラブルを経験している。しかし、それを乗り切った時に、確実に自分は成長している。むしろ、トラブルは神が与えてくれたプレゼントだと思わなければ。

※

十三のナチュラルという小さいバーでのライブから、僕のソロチャリツアーははじまった。青森まで約1ヶ月間の長旅。8月には北海道を2週間ツアーした。自転車で旅をしながらのソロピアノツアーを思いついたのは実はもう6年前の話。僕の最初の自転車での長旅、7年前大阪から上京したとき、住み慣れた大阪からこれから住む東京との距離感を体を持って体験するために旅したとき、その時から僕はいつか、これを音楽と繋げたいいな、と思っていた。

しかし、実現にあたり不安要素はたくさんあった。体力の問題、バーストやパンクに限らずメカや天候のトラブル、なんせ道中はほとんど野宿だから体調の管理も難しい。しかし、何よりも最も不安だったことは、僕のこの試みを、聞いてくれる人と共有することが果たして出来るのだろうか、ということだった。

旅で得た感動を、ダイレクトに音楽にして伝えて行く、言うは易しですが、やはり絵画等に比べても遥かに抽象的な芸術である音楽で、可能なことなのか僕には解らなかった。もしかしらたとても荒唐無稽なことをやろうとしているのではないかと。この思いはなかつ

た訳ではない。僕はとんだドンキホーテなのではないか? それは杞憂だった。それは実に普通なことだった。昔から旅する芸術家は数多くいた。松尾芭蕉や山下清、富岡鉄斎ら、偉大な人々と自分をなぞらえるのは気が引けるが、音楽は空間に絵を描く、それが違うだけで、何も特別なことではなかった。僕の夢だったソロピアノツアー、いや夢と言ってしまうのは僕にとって少し感覚が違う。もちろん、願望ではあったけど、それは夢ではない。なぜならば旅は、特別な、だけど日常の連続だから。僕にとって音楽もそう。特別なんだけど日常なんだ。だから、夢という言葉はふさわしくない。強いというなら希望、かな。旅と旅行は違う。旅は日常、旅行は非日常。だから、たくさんお金を使うといい旅行が出来るけど、出来るだけお金を使わないほうがいい旅が出来る。僕はテントを担いで自炊道具を積んで旅をする。日常の連続が、旅、そして音楽なんだ。

### SOLO PIANO vol.3 紡がれた印象 中村真

オリジナル曲を中心に〈ブルー・イン・グリーン〉などのスタンダードを斬新な解釈で演奏したピアノ・ソロ第三弾!

EWCD-0112 ¥2,500 (tax in)  
2006/7/5 Release



01. Spring can really hang you up the most
02. That sunday That summer
03. The comparison of a D ♭ major and the other
04. 風子
05. The first water
06. Blue in green
07. くまさんのフルツ
08. Improvisation - Erotic Blue
09. 夏の思い出
10. Improvisation - Bluespotted Mudhopper
11. Improvisation - Erotic Blue

【バーネル】中村真 (P)



# Impression of Tristano

## Ablution について

第七回

たためでしょう。トリスターノ一派、特にトリスターノが作った曲は、50年代からライブでは演奏されている、レコード上で発表されたのは70年代以降になってから、というものも何曲かあります。

さて、フェイクしたバージョンばかりでは採譜の参考にならないので、ちゃんとテーマを完奏している録音はないのだろうかと本を読んだり、人に聞いたりして色々調べていると('99年頃で、まだネットをやったことがなかった)、トリスターノの弟子でもあるアラン・ブロードベントのデビュー・アルバム『Alan Broadbent & Putter Smith / Continuity』('81)と、ウォーン・マーシュが、秋吉敏子のプロデュースでEast world (東芝)に吹き込んだ『Warne Marsh meets Gary Foster』('82 / こちらにもブロードベントとスミスは参加)で『Ablution』が演奏されていることがわかりました。

(以下次号)

### LIVE スケジュール

●12/22 (金) 昼2:30~  
新宿ピットイン ¥1,300

平井庸一 (g)、都築猛 (p)、増田ひろみ (as)、橋爪亮督 (ts)、海道雄高、蛸子健太郎 (b)、竹下宗男 (dr)

●ベース2人が同時に異なる拍子(4と7とか)を弾くアプローチに久々にはまっています。

●毎週金曜日 pm7:30  
六本木 FIRST STAGE (03-3405-1910)  
¥2,000 (ドリンク付)



筆者(後列右)とバンドの面々

### プロフィール

平井庸一 (ひらい・よういち) : 1970年生まれ。大学時代に高嶋宏にジャズ・ギターを師事。使用楽器は、Gibson L-7C、ES-125、シャープウッド・ギター特製バリトン・ギター。



トリスターノ一派の曲を演奏する上でまず大変だったのは、譜面の調達でした。

パーカー、コルトレン、ショーターなどの人気ミュージシャンが書いた曲の譜面は、多くがスタンダード曲集に載っているし、現在は、比較的マニアックなミュージシャンのものでも輸入楽譜、教材を取り扱っている店にあれば、ほとんどの曲の譜面を手に入れることができます。にもかかわらず、トリスターノやコニッツの曲の譜面はほとんど見かけることがないため(需要がないからか)、それらを演奏するためには、レコードや、CDから採譜(コピー)しなければなりません。

そこで今回はトリスターノ作(アルバムによっては、クレジットがコニッツ作だったり、二人の共作だったりもする)の『Ablution』という曲を例にして、譜面ができあがるまでの話を書きたいと思います。

有名なスタンダード・ナンバー『All The things You are』のコード進行に基づいて作曲された『Ablution』は、コニッツの『Jazz at Storyville』('54年)に収録されているものが最も有名ですが、このバージョンでは、コニッツが途中からテーマ・リフを伸ばしたり、拍をずらしたりしてフェイクして吹いているため、元々

のテーマがどういうリフなのか解りにくくなっています。

コニッツは『Konitz meets Mulligan』('53年)に収録の『All The things You are』でもアドリブの中で『Ablution』のリフを引用したりしている、おそらくこのコード進行上でモチーフとなるフレーズの拍をずらしたり、伸ばしたりして、ビートを分割するアプローチをライブの場で試していたのかもしれませんが(どちらもライブ録音)。

コニッツが、'51年にスウェーデンを訪れた際にヨーロッパのミュージシャンとラジオ用に録音した『Sax of a kind / Konitz in Sweden』でもこの曲が演奏されています。こちらのバージョンは、最初コニッツのアルトとピアノのデュオで始まるものの、ピアノのバックのリズムがあまりよくないためか、途中からテーマが崩れてしまっています。

ちなみにコニッツにそっくりなスウェーデンのサクソ奏者 Rolf Billberg (1930~1966) は『Jazz at Storyville』版の『Ablution』をテーマのフェイク部分もそのままにコピーして演奏しています('65年 / CD『Darn that dream』に収録)。

これは'60年代にはテーマが完奏されたバージョンがまだ発表されていなかった

ビッグバンドというものは、馴染みのない人にとっては本当に馴染みのないものです。一般的なイメージは、グリーン・ミラーやカウント・ベイシーから、ギル・エヴァンスや秋吉敏子などの即興系へ一足飛び、「古き良き」と「インテリ」の2大先入観が、ビッグバンドという形態には残念ながらつきまといつているみたいです。そのせいか、ジャズが元気になって来たとはいえず、ビッグバンドにまではなかなか光が当たらない。こんなに楽しいのに。

だからこそ、ASA-CHANG & ブルーハッツ(文字通り、みんなが青い帽子を冠っている)を多くの人に聴いてほしいと思います。音楽は、アートではあるけれどやっぱりエンタテインメントなんだ!という事実は、知っていたつもりでも意外や意外、目から鱗であったりもします。そんなのが、ASA-CHANG & ブルーハッツです。まず、元気です。陰りや小難しさを重宝したがる妙な流れとは全く関係なく、祭並みにやいやいしています。

東京スカパラダイスオーケストラ(以下、スカパラ)の創設者&元リーダーでもあるASA-CHANGにとっては、スカパラも一種のビッグバンドだったそうです。確かに、「ひとりでも楽しい、みんなでやればもっと楽しい」的なあのエネルギーは、ビッグバンドならではのものです。

## ビッグバンドは、やっぱり華々しい。

vol.5

text by hanao (JJazz.Net)

放送が始まったばかりのJJazz.Netでのインタビューでも、ASA-CHANGは語っています。「自分がドラムを叩くバンドをやりたいかった」と。その理由は、このライブですぐに納得がいきました。確かにドラマーはビッグバンドの花形ではあるけれど、花形云々の前に、あんなに楽しそうにミュージシャンを、なかなか見ることができません。総勢20名の出演者が、揃いも揃ってここにこしているビッグバンドも。

やっぱりビッグバンドは派手です。見た目も音も(特にこのバンドはメンバーも!)派手で、華々しい。楽しくて熱くて汗をかいて、みんなの顔がびかびかしている様が目に浮かびます。小島真由美や敷島が加わって盛り上がるポップさ。ニール・ヘフティやバディ・グレコのナンバーを取り上げるジャズっぽさ。

音楽が楽しくて楽しくて、という人が十数人集まれば、楽しさは人数分ではなくて、その百倍くらいになります。無限のかけ算みたいなビッグバンドのマジックを、ぜひ体感してください。明るくて何が悪い!楽しくて何が悪い!と久しぶりに堂々と思えました。楽しもうとしていて、楽しませようとしている。素晴らしい状況です。一夜限りで銘打って結構されたこのライブが、CDとDVDで同時リリースされるとのこと。そしてJJazz.NetではASA-CHANGのインタビューを放送中。本当に、素晴らしい状況です。

internet radio station  
**JJazz.Net**  
Japan Jazz Network

大切なものに出会うために  
その人にとって大切な音楽は、忘れられない新しい出会いを作ります。  
大切な音楽。大切な人。大切な想い。

COMING 照屋美穂 INTERVIEW、清水靖晃 LIVE etc...

"ASA-CHANG" SPECIAL INTERVIEW!

真冬の夜のブルーハッツ  
Asa-Chang & ブルーハッツ  
DVD NGBA-1002 ¥3,500(税込)  
CD NGCA-1026 ¥2,000(税込)  
2006.11.22. On Sale!  
nowgomix Records

月額1,050円の会員サービスでは  
約4ヶ月分のアーカイブ、常時約500曲が聴き放題

www.jjazz.net

# 急に垂直に、 しっかりと、立つ。

**Drive!**  
**Slow**  
Jazzで  
立ちどまりながら

連載 vol.11

text by 小沼純一



## MONTRÉAL DIARY / Enrico Rava, Stefano Bollani

01. THEME FOR JESSICA
02. LE TUE MANI
03. THE WAY YOU LOOK TONIGHT
04. AMORE BACIAMMI
05. TANGO FOR VASQUEZ Y PEPITA
06. CERTI ANGOLI SEGRETI
07. LE SOLITE COSE
08. BANDOLEROS

[パーソナル]  
ENRICO RAVA (Trumpet)  
STEFANO BOLLANI (Piano)

Label Bleu  
LBLC 6645/HM83

『人生は、奇跡の詩(うた)』を観る。冒頭、いきなりトム・ウエイツがラヴ・バラードをせつせつと歌い、そばにはボルヘスやユルスナール、ウンガレッティといった名だたる詩人たちが、特殊効果で、カメオ出演している。イタリアと戦時下のバグダッドを中心とするこのコメディの主演・監督は、『ダウ・バイ・ロー』で日本に顔見せをし、『ライフ・イズ・ビューティフル』で実力をみせつけたロベルト・ベニーニ。ここでは大学教授でもある詩人の役柄で、ともかく喋りまくる。危険だったり悲しかったりするシーンであろうと、ともかく、すごい勢い。言葉の洪水に、こまごまとした感情はほとんど持ていかれてしまう。

このベニーニが、何となく、ステファノ・ボラーニを想いおこさせるのである。実際に似ているかどうかは意見の分かれるところだろうが、ともに、かなり「イタリア」の、一種の典型の顔ではあるだろう。そして、ボラーニの演奏が、特にエンリコ・ラヴァとデュオやるとき、ユーモアとい、スピード感とい、しみみさせる音色とい、急に垂直にしっかりと立つアタックとい、ベニーニの演劇と通じるのだ。

11月初めにはGiza International Jazz Festivalで来日していたというのに、残念、すっかりその時期に風邪をひき、生の演奏は聴けずじまい。だから、この少し前のライブ盤を引っ張りだしてきたという訳だ。

ボラーニは最近ECMからソロをリリースした。その前には、ラヴァの名が中心となった『イージー・リヴィング』と『タチ』が日本盤としてリリースされている。前者はボラーニを含むイタリア人メンバーでかためたクインテットで、2003年6月の録音。後者はフランスの映画監督ジャック・タチからタイトルをとって、ボラーニ、そしてポール・モチアンとのトリオによる、2004年11月の録音。ここでとりあげるデュオはもっと前、2001年7月、モントルー・ジャズ・フェスティバルでのライブである。

ボラーニがラヴァと二緒に演奏するようになったのは1996年以降というから、今年で10年。その真ん中あたりで、このデュオ・ライブはおこなわれたことになる。ラヴァは1939年生まれだから、この頃はちょうど還暦といったあたりか。ボラーニといえ、72年生まれで、ラヴァのほぼ息子の子世代。とはいえ、音だけ聴いているかぎりにおいては、そうした年齢の差はまるで問題にならない。まあ、ジャズの醍醐味のひとつにデュオがあるとはよく言ったもので、けつして長丁場ではなく、快活なテンポで吹きまくる弾きまくるのをあれよあれよと巻き込まれ、ときにバード調のうたのところに酔い、ときにタンゴのアクセントをぐさぐさ胸に突き刺しながら、あつという間に50分弱が過ぎる。フランス語の紹介が締めくくられる。

おなじECMで、おなじトランペットというなら、ボラーニのトマス・スタンコがいる。世代的にもラヴァと重なる。でも、スタンコの肉省的、破裂音とつづく擦れる音がさらに揺れてはかないうたを織ってゆくのに対し、ラヴァは、ひじょうに似たところを持ち合わせながらも、ときにすらすら、ときにばりばりと吹きまくる。ときに饒舌となり、過剰さが露呈する。特にボラーニと二人だけでライブだと、抑制がはずれておもしろい。それが、いい。

ふと、想いだすのはこんなことだ。大昔、十代の頃、おなじ曲が演奏されているなら、ジャズでもロックでもライブ盤を買うのがもっぱらだった。スタジオで、まだ曲に慣れていないうちに録音したのもより、何度何度もツアーをやるうちにだんだんと練れてきて、曲も「手」にはいつてきて、遊べるようになってくる。観客の視線、耳への反応もある。空気がつくられる。だからこそ、ライブ盤を愛聴したのだったが、はて、いつからそういうのを忘れてしまったのか、それとも遠ざかってしまったのだったか。

原田真人→宇崎竜童→矢野沙織→早坂沙知→原田芳雄→坂田明→阿川佐和子→島田歌穂→森山良子→かまやつひろし

## JAZZへの扉 Vol.11

いくら何でもナンバーワン・ジャズ・ボーカリスト  
というのはおこがましいです。 藤田恵美 (談)

ゲスト  
藤田恵美



たった今入った情報ですが、香港、シンガポール、韓国、マレーシアで先行発売された最新アルバム『camomile classics』が、HMV香港で今日付の韓国・日本アルバム・チャート部門で一位になったんです、と担当マネージャー氏の笑顔とともに藤田恵美さんが登場した。1994年にLe Coupleとしてデビュー。97年〈ひだまりの詩〉で大ブレイク。2001年からソロ活動を始めた藤田さんが2001年に発売した『camomile』が香港で評判を呼び大ヒット。ゴールド・ディスクを獲得した後に、台湾、韓国、マレーシア、シンガポールでも発売され、2003年に6カ国で同時発売された『camomile blend』は、各国でヒットチャートにランク・イン。今や堂々たるアジアの歌姫として評判を呼んでいる。

私のCDがアジアのCDショップのジャズ・コーナーに飾られて、ナンバーワン・ジャズ・ボーカリストなど書かれるのはとてもおこがましいです。香港のCDショップではクラシック・コーナーに飾ってありました。チェロが入ったりウッド・ベースが入っているので、その気持が分からなくはないのですが、そんな時は、そとカントリー売り場にCDを移したりします。帰りがけに覗いてみると、また元の場所に置かれていますけど。

私たちのアジアに打って出ようという気持ちから始まったのではなく、余計な情報に惑わされなくて純粋に歌声を耳にした方たちの評判が香港から台湾、マレーシア、韓国に口コミで広がったことがヒットにつながったのは、アーティスト本人としてはほんとうに嬉しい売れ方だと思います。

私はジャズが詳しいわけではないですが、思い出深いジャズの曲が何曲もあります。20代でカントリーを歌い始めたきっかけの一つがエミルー・ハリスなので、当時は彼女のカヴァーをたくさん歌ってました。エミルー・ハリスはジャンルを越えて色んな歌を歌っていますが、〈ハウ・ハイ・ザ・ムーン〉も歌っているんです。

当時、新宿コマ劇場下の「ウィッシュボーン」というライブ・ハウスのハウス・バンドをやっ

ていましたので、毎日そのお店で歌っていました。向かいが「カーニバル」というジャズのライブ・ハウスで、休憩の時によく覗きにも行ってましたが、その頃〈ハウ・ハイ・ザ・ムーン〉を歌っていたんです。

この曲は早弾きのギター・ソロもあり、共演する演奏者の方たちもとても喜んでくれました。この曲は早弾きのギター・ソロもあり、共演する演奏者の方たちもとても喜んでくれました。

自分で歌ったことはありませんが、ウディ・アレンの『カイロの紫のバラ』という好きな映画の中でフレッド・アステアの〈チーク・トゥ・チーク〉が流れて、とても印象に残っています。この曲を聞くと、夢を貰えるという気分になるんです。

その後、東京ホット倶楽部バンドで、服部良一さんの〈支那の夜〉とか〈蘇州夜曲〉〈ダイナ〉とか〈港が見える丘〉なんかをジャンゴ・ラインハルト風のサウンドをバックに歌ってました。

ふだん、一生懸命ジャズを聞くことにはありませんし、私はお酒が飲めませんが、ゆったりとした気分の時に、歌もののスタンダード・ジャズなんかを聞きたくなります。特に、針音が聞こえそうな雰囲気のあるジャズ

【藤田恵美略歴】  
1994年、ル・クプルとしてデビュー。97年に〈ひだまりの詩〉で大ブレイク。CMへの楽曲提供やコンサート活動を続ける傍ら、ソロ・プロジェクトとして活動を開始する。01年11月に洋楽の名曲をカバーしたCD『camomile』発売後、香港で彼女の評判が口コミで広がり、ゴールドディスクを獲得。03年には2ndアルバム「Camomile blend」が香港、台湾、韓国、マレーシア、シンガポールで同時発売され、ヒットチャートにランク・イン。04年にはシンガポール最大のコンサートホール「Esplanade theatre on the bay」で、日本人初のワンマンコンサートを行なうなど活動の拠点がアジアに広がっている。

の曲が好きなんです。今回のアルバムでも〈ペイパー・ムーン〉とか〈ブルー・ムーン〉が候補に上がりましたが、いざ歌ってみると、私が歌わなくてもいいかという出来上がりなので辞めましたけど。

編集協力：ピンポイント

**e-onkyo.com**  
music store

**秋吉敏子**  
音楽生活60周年記念企画

オーディオメーカーのONKYOが運営する高品質音楽配信サイト [e-onkyo music store] と日本クラウンの共同企画

High Difintion Sound **HD**

指先から鍵盤へ、彼女が込める想いまで聴こえてくるようだ。

こだわりの音質 24bit96kHz で聴く、日本が世界に誇るジャズピアニスト 秋吉敏子の世界

高品質配信実現のために、レコーディングエンジニア・行方洋一氏によるスペシャルチューン！ 今回の配信のために特別にアソートされたベストセレクションを含む13タイトルを順次配信中！

HD高品質音楽配信サイト

**e-onkyo music store**

<http://music.e-onkyo.com/>



# レーベル買い!

## Nocturne

隔月の第四土曜日に、吉祥寺にあるジャズ喫茶「メグ」で新譜試聴会というイベントを担当している。ディスクユニオンのジャズ担当責任者の山本隆さんと2名で4時間30曲程度かけている。お客さんは常時20~30名といったところ。セレクトする曲で反応がダイレクトに伝わってくる。盛り上がりれば4時間も席を立たないが、その逆の場合は店から人がいなくなる。主催者側にとってはワクワクとヒヤヒヤが同居する。



Pierrick Pedron『Deep In A Dream』(Nocturne)

山本隆さんはこれから発売される超新譜、僕は店頭で並んだ新譜からセレクトしている。

ということで僕は2ヶ月で約20枚程度の新譜を買っていることになる。新譜は毎月輸入盤も含めると恐らく100~150枚程度店頭で並び、予算の関係もあるのでいいCDをできるだけ多く掘り当てたい。そこでひとつの指標になるのはやはりレーベルだ。

僕が最近必ずチェックしているレーベルがフランスの「Nocturne」。再発ものリリースも多く、タイトル数も多いことからやや難しいレーベルだが、ここ数ヶ月発売されているCDは全て僕の好きな音ばかり。10月に行なった新譜試聴会でも3枚をセレクトした。そこで圧倒的に支持されたのが『Pierrick Pedron / Deep In A Dream』だ。特に8曲目の〈After You've Gone〉、とび跳ねるようなピアノのリズムに伸びやかなアルトが鳴り響く。全編に漲るエネルギーに思わず笑みがこぼれる!

(大河内善宏)

MOONKSとは...  
 6人のメンバーの頭文字からなるMOONKS。「批評」ではなく、ただ「好き」を唯一の基準に活動する「ジャズ鑑賞集団」。2004年9月のフリーペーパー「MOONKS Must 150」はCD時代の金字塔的ガイドブックとして購入者に圧倒的に支持された。「ジャズ批評」のCDレビューに注目。

## 絶対裏切らない

### Smalls Records

お気に入りのアーティストの新作を聴いて、がっかりした経験があるのはほくだけじゃないはずだ。いや、まったく別人といって良いかもしれないぐらいのスタイルに変貌しきっちゃうことのほうが多いかも。だいたいほくが気に入ったアーティストの方々は、変わらなければいけないとお思いなのか、よく変化しちゃうんですよ。困ったものです。そんなキズついたらほくを救ってくれる購入方法が、「レーベル買い」なのです。

今も昔も、ジャズには魅力的なレーベルが目白押し。レーベルのカラーはプロデューサーによって決定される。ブランドのデザイナーのような存在だ。鼠眉にしているレーベルには盲目的に散財してしまいます。こうなってくると、ブランド狂のひとに似ていなくもないような気がせんでもないですなあ...

LP時代、ベツレヘム、ABC、インパルス、



Ari Roland『Sketches From A Bassist's Album』(Smalls Records)

パープで活躍した敏腕プロデューサー、クリード・テイラーが1967年にA&Mに引き抜かれ、自分の名前を關したレーベル、CTIからヒットを連発させたのは周知の事実。その彼がABC時代に自らのオーケストラを率いた『ロンリービル』というアルバムを見つけた。小躍りしてレジに駆け込んだ。

さて、今ほくが惚れ込んでいるプロデューサーは、ルーク・ケイバン氏。ニューヨークはグリニッジビレッジのSMALLSから熱い演奏を届けてくれる。絶対裏切らない。

(前泊正人)

## CELLAR LIVE

極上のライブを“体験”したいときに僕が選ぶレーベル。それが「CELLAR LIVE」だ。

「CELLAR LIVE」はカナダのバンクーバーにあるライブスポットで、地下室(CELLAR)を改造したレストラン。レーベル・オーナーであり、プロデューサーであり、ミュージシャンであり、レストラン・オーナーでもあるCary Weedsがこの場所を購入するやいなや録音機材を持ち込み最高の「ライブスタジオ兼レストラン」を作りレーベル名として冠したというもの。ライブ録音ではないが、昨年話題となったDave Robbinsの『at the mark』も同レーベルのものである。落ち着いた雰囲気の中でミュージシャンが実に気持ちよくプレイし、聴衆の静かな興奮する様子が目に浮かぶような作品が多い。

特に『Live At The Cellar』におけるCharles McPhersonはビバップの流麗なフレーズが豊かな清流の流れのように絶えることなく繰り出され、アルトの音色の一粒一粒がCELLARの壁という壁に共鳴し、くつろいで聴き入る男女の間をきらきらとダイヤモンドダストを降り注いでいるかのような名演。

NYの「SMOKE」の(かつての「SMALLS」でも)常連メンバーであるエリック・アレキサンダーもThe Anniversary Quartetとして『You'll See!』において最高のハードバップを聴かせている。このアルバムはプロデューサーとしてCary Weeds自身が記している。

このアルバムに署名として最後にプリントされた一言。ここに僕は「CELLAR LIVE」レーベルの「矜持(Pride)」を感じ、小さく「Yeah」とつぶやいた。

Cary Weeds Producer / Jazz fan

(白澤茂稔)



Charles McPherson『Live At The Cellar』(CELLAR LIVE)

# The live line!

## 12月の新宿ピットイン

【夜の部】

開場 PM7:30 開演 PM8:00 ¥3,000~(1DRINK付)



### DAVID MURRAY QUARTET 2DAYS

前売¥6,000 当日 ¥6,500

12月1日(金)  
 デヴィッド・マレイ (Ts,B-cl)  
 ラフェット・ギルクリスト (P)  
 ジャリブ・シャヒド (B)  
 レンゼル・メリット (Ds)  
 12月2日(土)  
 デヴィッド・マレイ (Ts,B-cl)  
 ラフェット・ギルクリスト (P)  
 ジャリブ・シャヒド (B)  
 レンゼル・メリット (Ds)  
 ◎新宿ピットインにて11/4よりチケット(予約可)前売り開始。



David Murray

### 12月3日(日) BOZO

津上研太 (As) 南博 (P) 水谷浩草 (B) 外山明 (Ds)

### 12月4日(月) 渋谷毅 TRIO

渋谷毅 (P) 望月英明 (B) 外山明 (Ds) ゲスト:古澤良治郎 (Ds)

### 12月5日(火) 藤井康一 ブルース・セッション

藤井康一 (Vo,Ts) 峰厚介 (Ts) 是方博邦 (G) 大口純一郎 (P) 米木康志 (B) 江藤良人 (Ds)

### 12月6日(水) 原朋直 カルテット

原朋直 (Tp) 石田衛 (P) よしみせいいち (B) 森島裕貴 (Ds)

### 12月7日(木) 淡さ知らズ

◎新宿ピットインにて11/1よりチケット(予約可)前売り開始。

### Phil Miller In Cahoots

前売¥7,500 当日 ¥8,000

8日 開場 20:15 開演 20:30  
 9日 開場 20:00 開演 20:30



Phil Miller

12月8日(金)  
 フィル・ミラー (G) フレッド・ペーカー (B,G) ビート・レマー (Key)  
 サイモン・フィンチ (Tp,Flh) サイモン・ピカード (Ts)  
 マーク・フレッチャー (Ds)

12月9日(土)  
 フィル・ミラー (G) フレッド・ペーカー (B,G) ビート・レマー (Key)  
 サイモン・フィンチ (Tp,Flh) サイモン・ピカード (Ts)  
 マーク・フレッチャー (Ds)

◎チケットぴあ、新宿ピットインにてチケット前売り中。  
 この公演に限り、Office Ohsawa (03-3728-5690) にても、チケット前売り中。

### 12月10日(日) 加藤崇之 エレクトリック湯

加藤崇之 (G) SHOOMY (Key) 芳垣安洋 (Ds)

### Jean Philippe Viret Trio 2DAYS

前売¥4,500 当日 ¥5,000

12月11日(月)  
 ジャン・フィリップ・ヴィレ (B)  
 エドワード・フェレ (P)  
 アントニー・ヴェルヴィレ (Ds)



Jean Philippe Viret Trio

エドワード・フェレ (P) アントニー・ヴェルヴィレ (Ds)

◎新宿ピットインにて11/4よりチケット(予約可)前売り開始。

### 12月13日(水) ジョージ大塚 NIGHT

ジョージ大塚 (Ds) 深沢真奈美 (P) 高山夏樹 (B)

### 12月14日(木) HIROSHI MINAMI GO THERE!

南博 (P) 竹野昌邦 (Sax) 水谷浩草 (B) 芳垣安洋 (Ds)

### 芳垣安洋 2DAYS

12月15日(金) Vincent Atmicus

芳垣安洋 (Per,Ds)  
 青木タイセイ (Tb,Pianica,B)  
 松本治 (Tb) 勝井祐二 (Vn)  
 太田恵貴 (Vn) 水谷浩草 (B)  
 高良久美子 (Vib,Per)  
 岡部洋一 (Per,Ds)



芳垣安洋

12月16日(土) 芳垣安洋 KC7

芳垣安洋 (Ds) 青木タイセイ (Tb)

堀谷博之 (Ss,Cl) 内橋和久 (G)

高良久美子 (Vib,Per)

鈴木正人 (B)

ゲスト:オオヤユスケ (Vo)

◎新宿ピットインにて11/4よりチケット(予約可)前売り開始。

### 12月17日(日) 酒井俊 Plays Standard vol.9

酒井俊 (Vo) 桜井芳樹 (G) ゲスト:松永孝義 (B) 岡部洋一 (Per)

### 12月18日(月) 山下洋輔 ニュー・カルテット ¥4,000

山下洋輔 (P) 柳原旭 (B) 小笠原拓海 (Ds) 米田裕也 (As)

### 梅津和時 冬のふりふり 2006 ¥3,500

### 12月19日(火) 新大久保ジェントルメン

グレート金時 (Vo,Sax,Per)

イゴール (Vo,P,Key,Per)

アブドゥール・ワハハ (Vo,Vn,Per)

ゲスト:仙波清彦 (Per)



梅津和時

### 12月20日(水) アフロ!ファンク!フリー! JAZZ

梅津和時 (As) GAMO (Ts) 丈青 (P) ナスノミツル (B) ツノ犬 (Ds)

ヤヒロトモヒロ (Per)

## SHINJUKU PIT INN

〒160-0022  
 2-12-4 ACCORD BLDG. B1  
 Shinjuku shinjuku-ku Tokyo JAPAN  
 ☎ 03-3354-2024  
 http://www.pit-inn.com

12月21日(木) こまっちゃ&リズム  
 梅津和時 (Sax,Cl) 多田葉子 (Sax,Cl) 松井亜由美 (Vn)  
 張紅陽 (Acc) 関島岳郎 (Tuba) 新井田耕造 (Ds)  
 ◎チケットぴあ、新宿ピットイン(店頭販売のみ)にて、11/4よりチケット前売り開始。

### ■ 森山威男 2DAYS ■ ¥4,000

12月22日(金) クインテット  
 森山威男 (Ds) 音川英二 (Ts) 佐藤芳明 (Acc) 田中信正 (P)  
 望月英明 (B)

12月23日(土) クインテット  
 森山威男 (Ds) 音川英二 (Ts) 佐藤芳明 (Acc) 田中信正 (P)  
 望月英明 (B)

◎新宿ピットインにて11/4よりチケット(予約可)前売り開始。

12月24日(日) OTOMO YOSHIMIDE NEW JAZZ QUARTET

¥3,500

大友良英 (G) 津上研太 (Sax)

水谷浩草 (B) 芳垣安洋 (Ds,Tp)

### クリスマス・ナイト

※この公演にご来場の全てのお客様に、ピットインからのクリスマス・プレゼント付きです。



大友良英

◎新宿ピットインにて11/4よりチケット(予約可)前売り開始。

### 12月25日(月) What is HIP? ¥3,500

松木恒秀 (G) 野力奏一 (Key) 岡沢章 (B) 渡嘉敷祐一 (Ds)

### クリスマス・ナイト

※この公演にご来場の全てのお客様に、ピットインからのクリスマス・プレゼント付きです。

### ■ 浅川マキ・大晦日公演-五日間連続- ■

前売¥4,500 当日 ¥5,000

12月26日(火) GUEST: 渋谷毅 (P,Or)

セシル・モンロー (Ds) 向井滋春 (Tb,Cello)

12月27日(水) GUEST: 渋谷毅 (P,Or)

セシル・モンロー (Ds) 向井滋春 (Tb,Cello)

12月28日(木) GUEST: 渋谷毅 (P,Or)

セシル・モンロー (Ds) 向井滋春 (Tb,Cello)

12月29日(金) GUEST: 渋谷毅 (P,Or)

セシル・モンロー (Ds) 向井滋春 (Tb,Cello)

12月30日(土) GUEST: 渋谷毅 (P,Or)

セシル・モンロー (Ds) 向井滋春 (Tb,Cello)

◎チケットぴあ、新宿ピットイン(店頭販売のみ)にて、11/1よりチケット(予約可)前売り開始。

### 12月31日(日) ALL NIGHT CONCERT 2006~2007

開場 19:00 開演 19:30~AM4:30 ¥4,000

■ PM7:30~8:30 五十嵐一生ユニット

五十嵐一生 (Tp) 納谷嘉彦 (P) 荒巻茂生 (B) 本田珠也 (Ds)

■ PM8:50~9:50 幸島文雄 カルテット

幸島文雄 (P) 池田篤 (As) 高道晴久 (B) 小山太郎 (Ds)

■ PM10:10~11:10 渋谷毅 ORCHESTRA

渋谷毅 (P) 峰厚介 (Ts) 林栄一 (As) 津上研太 (Sax)

吉田隆一 (Bs) 松本治 (Tb) 石渡明廣 (G) 上村勝正 (B)

古沢良治郎 (Ds)

■ PM11:30~12:30 酒井俊 GROUP ※カウントダウン

酒井俊 (Vo) 林栄一 (As) 坂本弘道 (Cello) 田中信正 (P)

関島岳郎 (Tuba) 外山明 (Ds) 岡部洋一 (Per)

■ AM12:50~1:50 HIROSHI MINAMI GO THERE!

南博 (P) 竹野昌邦 (Sax) 水谷浩草 (B) 芳垣安洋 (Ds)

■ AM2:10~3:10 EMERGENCY!

芳垣安洋 (Ds) 大友良英 (G,Electronics) 齊藤良一 (G)

水谷浩草 (B)

■ AM3:30~4:30 板橋文夫 TRIO+3

板橋文夫 (P) 井野信義 (B) 小山彰太 (Ds) 片山広明 (Ts)

田村夏樹 (Tp) 吉田隆一 (Bs) 太田恵貴 (Vn)

※協力:パール楽器

◎新宿ピットインにて11/4より前売り開始。





### I'm a drummer ~オイラはドラマー~

藤井 学

木住野佳子トリオを始め数々の女性ピアニストに絶大な人気を誇るドラマー藤井学、待望のリーダー作。

- Driving Beat "Introduction" / 02. Footprints
- Dolphin Dance / 04. Naima / 05. I Hear a Rhapsody
- Day Tripper / 07. Good-bye Pork Pie Hat
- Stella by Starlight / 09. All The Things You are
- New York 709

藤井学 (ds) / 吉田次郎 (gt)  
Cair Carter(bs) / David Finck(bs)  
Andy Ezrin(pf) / Die Mathisen(sax)

M-PRODECT  
MOJ-1001  
¥2,800 (税込)

2006/11/22  
Release



### 貧者の楽隊

ダニエレ・セペ&ロベーター・ジャズ・フラクツィオン

イタリアの何でもござれの異才ダニエレ・セペ。毎回奇想天外なサウンドで楽しませてくれますが、今作のテーマは、「ナポリ的なユーモアにこだわったポリティカルなストレンジ・ミュージック・ブラス・アンサンブル・ジャズ」。

- マウイール
- アイル・ガリ
- アリア・ジェ・スルターニ
- 鳥が来てバラをついばむ
- 嘘つきブッシュ
- 硫黄山の歌
- 山男の歌

ピーンズレコード  
BNSCD-8823  
¥2,940 (税込)

2006/10/22  
Release



### ピタンガ!

松田美緒

幸せの赤い実! ブラジルの大地のリズムに乗せて届けられたセカンドアルバム! 日本語含むオリジナルを5曲収録朝日生命「保険王」CM曲「イグノール」収録

- オラソン / 02. バイア〜サバテイロ通りの坂下で
- ピタンガ! / 04. バライーバ
- メロチア・センチメンタル / 06. 旅人のショッチ
- マエ・フレタ (黒き乳母) / 08. ラグリマ (涙)
- イグノール / 10. ホマリア (巡礼)
- 愛の歌 / 12. オラソン (海の女神への祈り)

松田美緒

ピクチャーエンタテインメント  
VICP-63609  
¥2,800 (税込)

2006/11/22  
Release



### If You Go Away

西任白鶴

今宵も世界のどこかで。ポップでツイスターなアーバン・スタンダード・アルバム。クール・ビューティーが歌うジャック・ブレール、ナンシー・シナトラ、クロディーヌ・ロンジェ etc.

- And I Love Him / 02. Night And Day
- No Moon At All / 04. The Shadow Of Your Smile
- If You Go Away
- You'd Be So Nice To Come Home To
- What Am I Bid? / 08. Hurry On Down
- Sugar Town / 10. Leaving On A Jet Plane
- Fly Me To The Moon / 12. Moon River

西任白鶴 (vo&pf) / 鬼怒無月 (g) / 中山努 (key)  
佐藤芳明 (acc) / 岡部洋一 (per) / 妹尾武 (ep)

silent  
PSCR-6177  
¥3,000 (税込)

2006/11/22  
Release



### UNFIXED MUSIC

鈴木正人

2006年、ポップな知性はラディカルに、ロジカルに、リリカルにジャズをやります。ジャズはポップミュージックにインサートされたフィクションに過ぎない。ミュージシャンのUNFIXEDな肉体が「歌」と「音」に揺れる。鈴木正人、初のソロアルバム。ヴォーカルにUA、青柳拓次が参加。

- Mist Goes Out / 02. El Hombre Dorado
- Hide-Covered Trunk / 04. A Tone Of Black
- A Giraffe Has Some Melancholy
- Circus Act / 07. Tiny Notes

外山明 (Drums) / 内橋和久 (Electric Guitar)  
芳垣安洋 (Drums) / 塩谷博之 (Clarinet, Soprano Sax)  
青木タイセイ (Trombone) / 高田達 (Pedal Steel Guitar)  
青柳拓次 (Banjo, Vocal) / UA (Vocal)  
鈴木正人 (Acoustic Bass, Electric Bass, Acoustic Guitar, Background Vocal)

intoxicate records  
INTD-1010  
¥2,600 (税込)

2006/11/22  
Release



### TIME6328

白石隆之

かつては、Phewと同じレベルからリリースをした。最近ではDev Largeと同じレベルからリリースをしている。そんなことを可能にできるのは白石隆之以外、あり得ない・・・

- 25年以上に及ぶ活動歴を、大胆かつ斬新な視点で統括するセルフ・ミックス・アルバム。遂にリリース! 時代を生き抜いてきた数々の音源から、その唯一無二の魅力溢れる音楽性を担当できる決定盤!
- Keep That Money For Us (Shiraishi Remix) ~ This Metal Way (Re)
  - Voices The Turning Of Tides + Seikakuna Chizu + Break Free + Life + Liberate Me + Mr.Blank + Nightfall + Intro / Musica Nova) ~ Wind Borne Soul / 03. Wavy Flames ~ Rhythm Track#PTNS0 / 04. Birds in Paradise (Re / Dub) ~ The dark Horizon(Re) / 05. Fragment No.1 (Slide Down + Rise + Steel Blue + Movin' Shadow + Nowhere + Passing + Intro / Musica Nova + Surfin' The Desert) ~ Mr.Blank / 06. Phoenix ~ Flicker (Re) / 07. Acrobatics ~ Fragment No.2 (NightWalker + On a Distant Shore + Surfin' The Desert) ~ Count Down (Re) / 08. Feel ~ Fragment No.3 ~ Photon / 09. Tomorrow Fiction ~ Chant
  - Lost Memories ~ Iris ~ Back Ground Musik (Bgm + Drum#3)
  - Redzone Dub ~ Nightfall (Re) / 12. To Be Continued

disques corde  
dccc-004  
¥2,625 (税込)

2006/11/18  
Release



### アフター・ザ・ファクト

ファクター

カナディアン・ヒップホップ若手 NO.1 プロデューサー Factor。リリカルなビートを追求しつづける彼がこれまで生み出してきた数々の楽曲のなかから、名曲だけを集めた最強のベストアルバム!

- Laugh And Cry feat. Kirby Dominant / 02. What'cha Gotta Say feat. M.Phasis, Epic and Vizion / 03. Boundaries feat. Def3, Forgetful Jones, NoBAllowed and Skizzafatnik / 04. More Broken Doors feat. Kay the Aquanaut, Ben.eElm, M.Phasis and Nolto / 05. Paranoid Castle (We Are The Ones) feat. Paranoid Castle / 06. Cold Touch feat. Ben.eElm and Nolto / 07. Scared Sacred feat. Cam The Wizard / 08. Media Showers feat. Side Road / 09. Thrown Away feat. Nolto, Factor and Kay the Aquanaut / 10. Little Japanese Girl feat. Ito Lee / 11. My Time feat. Kay the Aquanaut / 12. Try feat. Awol One / 13. Carly feat. Nolto / 14. Never Let You Go feat. Akuma / 15. Lazy Days feat. Candy's 22 / 16. What Could've Been feat. Def3, Kaboom and Cam the Wizard / 17. Getting Too Know Me feat. Nolto / 18. Another Tomorrow feat. Metropolis Now, Cam the Wizard and Nolto

hue  
HUJP-1034  
¥2,200 (税込)

2006/11/18  
Release



### ささやき

アダム・バーンバウム・トリオ

晩秋のNYからロマンチックにそっとささやくようなジャズ・ピアノ・トリオが届けました! 27歳の若さにして、いぶし銀のタッチ。デビュー作でリチャード・クライドマンをジャズにして、話題となったNY若手ナンパー・ワン・ピアニスト! アダム・バーンバウムが魅せる「リアル・ジャズ」

- ウイスキー・ノート / 02. 夜もすがら / 03. グッドバイ
- ガブリエル・ダンス
- イン・ユア・オウ・スウィーツ・グレイ
- 秋のささやき / 07. ケイト・ザ・グレイ
- アージェンシー / 09. イン・ウォークド・パド
- ニュー・オリオンズ / 11. 夢中なの
- ブラインド・セブン

アダム・バーンバウム (p) / ベン・ウルフ (b)  
ロニー・グリーン (ds)

After Beat  
PCCY-30103  
¥2,940 (税込)

2006/11/15  
Release



### シェルブールの雨傘

ケニー・ドリュー・トリオ

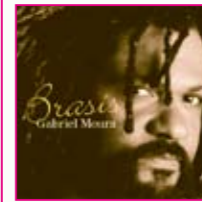
- 朝日のようにさわやかに
- シェルブールの雨傘
- 木の葉の子守唄
- ラウンド・ミッドナイト
- コルクヴァード
- ワンス・アポン・ア・サマータイム
- ドリーミン (\*)
- あなた達は恋を知らない
- 雨の日に
- イメージズ

(\*) = ピアノ・ソロ

ケニー・ドリュー (p)  
ニールス・ヘニング・オルステッド・ベデルセン (b)  
エド・シグベン (ds) # 1,3,4,8 & 9  
アルヴィン・クイーン # 2,5,6 & 10

After Beat  
PCCY-30105  
¥2,415 (税込)

2006/11/15  
Release



### ブラシス

ガブリエル・モウラ

聞く程に新たな魅力を発見し、カリオカ魂が宿る音のつとつとが耳と腰を刺激する、サウンドスケープ・フロム・リオ!

- EU CANTO SAMBA
- MINI SAIA
- O PERFUME DA NEGA
- GAROTA DO MEIER
- INVERNO NO RIO
- CHOSE DE LOUQUE
- MELHOR (E BOM ANDAR A PE)
- TEM FILA
- ESTRELA DO CEU
- BRASIS
- LAMENTO DO MORRO
- 日本盤限定ボーナストラック (詳細未定)

インパートメント  
RCIP-0101  
¥2,500 (税込)

2006/11/11  
Release



### ウー・ラ・ラ・ラ

オースティン

フェミニン、キート、アンニュイ・・・曲ごとのニュアンスを自在に表現する、繊細かつ伸びやかな、抜群の歌唱力。アコースティック・ギターが心地よいオーキー・ポップをベースに、フレンチの香り漂う軽やかなリズムやストリングスをアクセントに効かせた良質なサウンド。それは聴き手のメランコリーを呼び起こすような、フレッシュでありつつもノスタルジックな響きです。日本盤限定で、フランスでアルバムに先駆けてリリースされたEPより2曲ボーナス収録。

- Leitmotiv / 02. Plus Rein D'autre Entre Nous
- Rhume / 04. Petite Pute / 05. Cigale Glacee
- Decalque / 07. Le Cours / 08. Les Arbres D'en Face
- Cupide & Stupide / 10. Domir / 11. Novembre
- Au Soleil \* / 13. Ma Seule Entaille \*

Rip Curl Recordings  
RCIP-0102  
¥2,500 (税込)

2006/11/25  
Release



### 酒とバラの日々

ケニー・ドリュー・トリオ

- 酒とバラの日々
- イット・クッド・ハブ・トゥ・ユー
- いつか王子様が
- ネイチャー・ボーイ
- これぞ愛 (\*)
- 時には母のない子のように
- つきに想いを
- イメージ・リヴィング
- 時が忘れて
- ゼア・イズ・ノー・グレイター・ラヴ

(\*) = ピアノ・ソロ

ケニー・ドリュー (p)  
ニールス・ヘニング・オルステッド・ベデルセン (b)  
エド・シグベン (ds) # 1,3,4 & 9  
アルヴィン・クイーン # 2,6,7,8 & 10

After Beat  
PCCY-30104  
¥2,415 (税込)

2006/11/15  
Release



### Facades & Skeletons

CAPPABLACK

ドイツのエレクトロニック・ミュージック・シーンの重要人物 Pole が惚れ込んだ才能! 日本発プレイクベーツ・ユニット CAPPABLACK。遂に人気レベルへscapeよりワールドワイド・デビュー! ILL SUONO の活動でも知られるハシム・B のアナザー・ユニット!

- counterattack intro / 02. slide around feat. awol one
- twisted minds / 04. new tone feat. emirp
- evil clap / 06. city of amnesia
- defying gravity / 08. tower of babel (interlude)
- tower of shodowns / 10. morphing truths
- hear no speak no feat. awol one
- them in us (interlude) / 13. akarui-mirai feat.emirp
- exterminating saints / 15. tokatonton feat. emirp
- sukinkutsu 09.12.2003

disques corde  
dccc-003  
¥2,625 (税込)

2006/11/14  
Release



**ピアノ・ナイト**

ケニー・ドリュエ・トリオ

01. イン・ユア・オウン・スイート・ウェイ  
02. これぞ春  
03. ブルーソロジー  
04. サンバ・ブティック  
05. 昨日のこと  
06. マイ・シャニング・アワー  
07. セント・トーマス

ケニー・ドリュエ (p)  
ニールス・ヘニング・オルステッド・ペデルセン (b)  
アルヴィン・クイン (ds)  
1992年5月20日 スイスのバーデン「クア劇場」にて収録

After Beat  
PCCY-30107  
¥1,995 (税込)

2006/11/15  
Release



**sggmt!!**

sgt. & good music!

映画音楽的な手法にクラシック、ノイズ、エモ、ジャズ、即興といったサウンドが折混ざられた sggmt. テルミンとツイアンコースティックギター、鍵盤の織りなす極上のメロディーにリズムカルな展開をエレクトロニカという手法に包み込んだ good music!。両者が提示した新たなインストウルメンタルバンドサウンド方向性がこの一枚に。ジャケットデザインは「k」レーベルアーティスト Kyle Field 氏 (Little Wings) 書き下ろし!!

01. paranoia (sgt.)  
02. a vague promise at courtyard (sgt.)  
03. fall (good music!)  
04. i was born on a ray of sound (good music!)

PENGUIN MARKET RECORDS  
PEM-003  
¥1,260 (税込)

2006/11/15  
Release



**Colors on Blue**

水上まり

その高い音楽性と充実した歌唱力を示す水上まりの1stアルバム

01. HOW HIGH THE MOON / ORNITHOLOGY  
02. LULLABY OF BIRDLAND / 03. CARAVAN  
04. ROUND MIDNIGHT  
05. SWINGIN' SHEPHERD BLUES  
06. CHAMELEON 7 MY FAVORITE THINGS  
08. SUMMERTIME / 09. SUNNY DAYS / 10. SPAIN

水上まり (VOCAL)  
大山日出男 (A.SAX)  
山岸笙子 (PIANO)  
山下弘治 (BASS)  
公手徹太郎 (DRUMS)

MUG MUSIC  
MUG-0001  
¥2,800 (税込)

2006/11/29  
Release



**camomile classics**

藤田恵美

アジアを「癒した」カモミールシリーズ第3集。更に深く、そして優しく・・・

01. Over the Rainbow / 02. Melody Fair  
03. All My Loving / 04. The Rose  
05. I'll Have to Say I Love You in a Song / 06. Lovin' You  
07. The End of the World / 08. Best of My Love  
09. And I Love You So / 10. Try to Remember  
11. Walking in the Air / 12. If / 13. Leaving on a Jet Plane  
14. Over the Rainbow -Reprise-

小松原俊 (ag.gutg)  
宇戸俊秀 (piano, Rhodes Piano, accordion, Low Whistle, Hammered Dulcimers, Penny Whistle)  
荒庸子 (cello) / 西海孝 (ag.gutg, Chorus) / 渡辺等 (wb)  
三沢またらう (per) / 武川雅寛 (violin)  
沢近泰輔 (Rhodes Piano) / クラッシャー木村 (Top Violin)  
森琢哉 (Violin) / 三木章子 (Viola) / 堀沢真巳 (Cello)

Leafage/ ボニーキニオン  
PCCA-02366  
¥3,000 (税込)

2006/11/15  
Release



**from "El Fantasma De La Libertad"**

Raphael Sebbag

DJシーン最後の犬物。クラブジャズのゴッドファーザー、ラファエル の1st音源!

01. Besos  
02. His Majesty  
03. El Fantasma De La Libertad  
04. Besos (Instrumental)  
05. His Majesty (Instrumental)  
06. El Fantasma De La Libertad ? zerodB Reconstruction  
07. His Majesty ? Street play remix  
08. His Majesty ? bisinis man : Tokyo narita (2017mega boy mix)  
09. Besos ? dub mix  
10. El Fantasma De La Libertad ? Juju Remix  
11. El Fantasma De La Libertad ? (another ocean, early morning, July)

PowerShovel Audio  
XQBP-1011  
¥2,000 (税込)

2006/9/25  
Release



**GATT・ユー・オン・マイ・マインド**

マデリン・ベル&ウィリアム・ギャリソン

ニュー・アルバム「ハーフ・ザ・パーフェクト」へ至る12の方法」が好評のマデリン・ベルが、「コーリング・ユー」(ハクダット・カフェ)の印象的なプレーで一躍脚光を浴びたトップ・ハーモニカ・プレイヤー、ウィリアム・ギャリソンとコラボレートした話題作が遂に国内盤で登場。マデリンのレイジー&スモーキーな歌声とグルーヴィーなハーモニカの音色が絶妙にマッチしたもうひとつの名盤。ゲスト・ヴォーカル: カーリー・サイモン (M9)

01. パック・イン・ユア・オウン・バック・ヤード / 02. ニックの夢 / 03. モントーパニック / 04. ガット・ユー・オン・マイ・マインド / 05. ジェラス・ガイ / 06. サウエイ・ユー・ルック・トゥ・ナイト / 07. ラグ・フォー・マディ / 08. プレイイン / 09. シュッダ・ノウ / 10. ヘヴン・トゥ・ミー / 11. ヘヴン・ヘルプ・アス・オール

マデリン・ベル (vo, g) / ウィリアム・ギャリソン (hca, vo)  
トニー・ガニア (b) / ジェン・ボルク (org)  
ブライアン・ミッチェル (p, org) / コンラッド・コーシュ (b)  
ジェームス・ワームワース (ds) / ジョーン・ベルトン (ds)

fab.  
MZCF-1106  
¥2,520 (税込)

2006/11/29  
Release



**Ebony Moon**

Steve Dobrogosz

飽くなき美意識と感性に裏打ちされたスウェーデンからの美曲。キース・ジャレットの影響を強く受け、彼のソロピアノをも彷彿とさせる珠玉のバラード集。

01. Childhood's End / 02. Her Own Fields  
03. Your Silent Eyes / 04. Little Lamb / 05. Prelude  
06. Rolling Back The Sea / 07. Violet/Psalm / 08. Sonnet  
09. Ebony Moon / 10. Balladear / 11. Touching  
12. Glade/The Trees / 13. North Hills / 14. Restless Night  
15. Someday I'll Be The Singer / 16. Nothing At All  
17. Old Front Porch / 18. Congregation / 19. Transistor

Steve Dobrogosz (piano)

BLUE GLEAM  
BG002  
¥2,520 (税込)

2006/11/17  
Release



**ワン・フィンガー・スナップ〜インクレディブル・ライオン**

ライオン・カイザー

熱いプロウと滑らかなスウィングに聴き惚れ、スタンダードを超えるオリジナルに惚れ。さらには余裕と歌心が加わったライオン・カイザーのプレイ満載。まさにライオン・カイザーのワン・ホーンの魅力を余すところなく捉えた最高傑作! ジャズの醍醐味、息遣いが聴こえる2chダイレクト・レコーディング。リー・モーガンのハード・バップ魂とフレディ・ハバードの都会的センスが融合された、21世紀ニュー・スタンダード誕生!

01. Horror Show\* / 02. Blues For Worm\* 03. Tin Tin Deo  
04. One Finger Snap / 05. My Ideal / 06. Buffalo  
07. Milestones マイルストーンズ  
08. A Walk In The Park ア・ウォーク・イン・ザ・パーク\*  
\*ライオン・カイザー・オリジナル曲

Ryan Kisor(tp) / Peter Zak(p)  
John Webber(b) / Joe Strasser(ds)

Videoarts  
VACM-1294  
¥2,940 (税込)

2006/11/22  
Release



**ラヴ・レターズ**

ジャネット・サイデル&ウィリアム・ギャリソン

ハーモニカに寄り添う。今や日本でも圧倒的な人気を誇るオーストラリアの歌姫、ジャネット・サイデルと、マデリン・ベルをはじめベギー・リー、チャカ・カーン、ハーブ・ストライザンドなど多くの人気シンガーと共演するハーモニカのマエストロ、ウィリアム・ギャリソンとのスイートでラヴリーなアルバム。国内初CD化!

01. ラヴ・レターズ / 02. スモール・フライ  
03. レイジー・ボウンス / 04. ホルチモア・オリオール  
05. トゥルル・ラブ / 06. ネイチャー・ボーイ  
07. ロッキン・チェア / 08. スターダスト  
09. ニアネス・オブ・ユー / 10. イン・ア・センチメンタル・ムード  
11. イット・エイント・ネセサリー・ソー  
12. いつもせよならを / 13. ムーン・リヴァー

ジャネット・サイデル (vo) / ウィリアム・ギャリソン (hca)  
チャック・モーガン (g) / デヴィッド・サイデル (b)  
アダム・パチエ (ds) ...他

fab.  
MZCF-1107  
¥2,520 (税込)

2006/11/29  
Release



**French Riviera**

Isabelle Antena

Paris 発 Tokyo 着のコンテンポラリー・ポップ。フレンチ・シンガー=Isabelle Antena による Japanese Producers.

01. The French Riviera  
02. Just for You and Me  
03. Sunshine Express  
04. Brazilian Dorian Dream  
05. All for The Music  
06. Histoire a Paris  
07. Fly Away  
08. Like There's No Tomorrow  
09. Dans le jardin d'Eden  
10. Under The Moonlight

Brian Melvin(ds, tabla) / David Kikoski(p, organ)  
Larry Grenadier(b)  
\*スペシャル・ゲスト  
Richard Bona(b, vo) on 4, 6, 10  
Toots Thielemans(harm) on 1, 7, 11  
Joe Lovano(ts) on 3, 8

GATE RECORDS  
GAGJ-0018  
¥2,625 (税込)

2006/9/20  
Release



**BEATLE JAZZ**

オール・ユー・ニード・イズ・ラヴ

ビートル・ジャズ

ビートルズの楽曲のみを取り上げ、絶妙なアレンジと圧倒的な演奏力で聴かせる最強ユニット、ビートル・ジャズの第4弾が遂に登場。ゲストに、リチャード・ボナ、トゥーツ・シールマンズ、ジョー・ロヴァーノを迎えた超大作! リチャード・ボナが「オール・ユー・ニード・イズ・ラヴ (愛こそはすべて)」を歌う! ビートル・ジャズ初のヴォーカル曲収録。

01. A Fool On The Hill / 02. Lady Madonna  
03. The Continuing Story Of Bungalow Bill  
04. All You Need Is Love / 05. All Things Must Pass  
06. The Night Before / 07. Beautiful Boy / 8. Look At Me  
9. I Want You (She's So Heavy) / 10. Cold Turkey  
11. Waterfalls

Brian Melvin(ds, tabla) / David Kikoski(p, organ)  
Larry Grenadier(b)  
\*スペシャル・ゲスト  
Richard Bona(b, vo) on 4, 6, 10  
Toots Thielemans(harm) on 1, 7, 11  
Joe Lovano(ts) on 3, 8

Videoarts  
VACM-1295  
¥2,940 (税込)

2006/11/22  
Release



**ライヴ・アット・モントルー 1976**

ニーナ・シモン

アルバムの音沙汰が無かった74年~78年間に登場したモントルー・ジャズ・フェスティバルの演奏が本編にあたるが、外見、振る舞い、歌・演奏のいずれも、<< 孤高のパフォーマー >> としての存在感を見せつける。圧巻はジャニス・イアン「モーリス・アルバートの名曲を繋(つな)げる05. 『スターズ・フィードバック』」。

【1976】 01. Little Girl Blue / 02. Backlash Blues  
03. Be My Husband / 04. I Wish I Knew  
05. Stars/Feelings / 06. African Mailman  
【1987】 01. Someone To Watch Over Me  
02. My Baby Just Cares For Me  
【1990】 01. I Loves You Porgy / 02. Liberian Calypso  
03. Four Women/Mississippi Goddam  
04. Ne Me Quitte Pas (Don't Leave Me)

Nina Simone(vo,p)

eagle vision  
VABG-1221 ¥4,935(税込)

2006/11/22  
Release



**Amazing**

arvin homa aya

arvin homa aya とトップクリエイター陣による壮大なコラボレーションアルバム!!

01. Amazing  
02. Girls Are Just Girls feat. akiko  
03. Rise Up To The Sun  
04. It's Time  
05. Dear Friends  
06. The Best You Can Be  
07. Before You Walk Out Of My Life  
08. Don't Wanna Fall In Love feat. JIN  
09. Special Night -a Christmas Song-  
10. Just As We  
11. Everyday

voicellar records/GATE RECORDS  
GTCR-05028  
¥2,500 (税込)

2006/10/18  
Release



**キッス・オブ・ファイヤー**

MAYA

魅惑のスーパー・エキゾチック・ジャズ・ビュティティーへ進化。なんと6カ国語に挑んだバラエティー溢れるラテンタッチなジャズ・アルバム。サウンドをサポートする豪華3セッションにも注目。

01. プロローグ〜男と女 (フランス語)  
02. デスティネーション・ムーン\*  
03. キッス・オブ・ファイヤー\*  
04. オー・ユー・クレイジー・ムーン\*  
05. マイアス・ビーチ・ルンパ\*  
06. アドロ (スペイン語)  
07. アイ・フィール・ザ・アース・ムーヴ\*  
08. ファンタジア (スペイン語)  
09. 恋の女のストーリー (日本語)  
10. ユー・アー・マイ・エヴリシング\*  
11. プルバード・オブ・アローケン・ドリームス\*  
12. パナネイラ (ポルトガル語)  
13. 砂に消えた涙 (イタリア語/日本語)  
14. エピローグ〜男と女 (フランス語)  
\*英語

Jroom  
COCB-53580  
¥2,940 (税込)

2006/11/22  
Release



**Wordless Anthology IV**

T-SQUARE

アルバム『BLUE IN RED』から『T-SQUARE』までの4枚の中からのセレクション。  
SAX,EWI プレイヤーが本田雅人〜崎崎陸隆へと変わり、個性溢れるミュージシャンをメンバーに迎え、T-SQUAREの活動を一旦休止するまでの4作品の中からのセレクション。  
『BAD BOYS & GOOD GIRLS』『MAN ON THE MOON』は NEW REMIX 音源!

01. BAD BOYS & GOOD GIRLS(2006 New Mix)  
02. TOO! TAIKO / 03. THE SEVEN WONDERS  
04. SAILING THE OCEAN / 05. PRAISE / 06. EXPLORER  
07. MAKE IT STONED / 08. A DAY IN BLUE  
09. SCRAMBLING / 10. A DREAM IN A DAYDREAM  
11. MAN ON THE MOON (2006 New Mix)

VILLAGE  
VRCL-2056  
¥2,835 (税込)

2006/12/6  
Release



**Wordless Anthology V**

T-SQUARE

安藤まさひろ & 伊東たけしの二人でのユニットとしての「T-SQUARE」の活動、そして、デビュー25周年記念に至る作品、『FRIENDSHIP』から『GROOVE GLOBE』までの5枚のアルバムからのセレクション。  
『EUROSTAR ~ run into the light ~』『DREAM WEAVER』は NEW REMIX 音源!  
『EUROSTAR ~ run into the light ~』は当時、日本テレビ系ニュース番組「きょうの出来事」のエンディングテーマとして使用。

01. FRIENDSHIP / 02. SAFARI / 03. MAY BE TOMORROW  
04. DESPEDIA / 05. TOYS / 06. SOFT MADNESS  
07. DOWN TO MEMPHIS / 08. HIT THE STREET  
09. 風の少年  
10. EUROSTAR ~ run into the light ~ (2006 New Mix)  
11. DREAM WEAVER (2006 New Mix)

VILLAGE  
VRCL-2057  
¥2,835 (税込)

2006/12/6  
Release

# INFORMATION

## Tiffany

### LIVE 情報

- 【日時】11月17日(金)  
【場所】六本木 ALFIE tel: 03-3479-2037
- 【日時】11月18日(土)  
【場所】青山 D's Bar tel: 03-5785-9360
- 【日時】11月20日(月)  
【場所】新宿 DUG tel: 03-3354-7776
- 【日時】12月2日(土)  
【場所】御茶ノ水ナル tel: 03-3291-2321
- 【日時】12月16日(土)  
【場所】青山 Body & Soul tel: 03-5466-3348
- 【日時】12月17日(日)  
【場所】新宿 DUG tel: 03-3354-7776
- 【日時】12月22日(金)  
【場所】六本木 ALFIE tel: 03-3479-2037

## Grace Mahya

### LIVE 情報

- 【日時】11月17日(金)  
【場所】青山 D's Bar tel: 03-5785-9360
- 【日時】11月19日(日)  
【場所】丹沢 青山荘 tel: 0463-75-2626
- 【日時】12月11日(月)  
【場所】横浜 KAMOME tel: 045-662-5357
- 【日時】12月14日(木)  
【場所】青山 D's Ba tel: 03-5785-9360
- 【日時】12月16日(土)  
【場所】銀座 ヤマハ tel: 03-3572-3135 ※入場無料
- 【日時】12月25日(月)・26日(火)  
【場所】新宿 DUG tel: 03-3354-7776

## アダム・バーンバウム

### 来日決定! 市原ひかり CD「Sara Smile」発売記念 スペシャル・ツアーに参加

- 【日時】11月22日(水)  
【場所】目黒 BLUES ALLEY JAPAN 問: 03-5740-6041  
【出演】市原ひかり(Tp) Adam Birnbaum(Pf)  
小山太郎(Ds) 井上陽介(B)

### 初のリーダー・ライブ

- 【日時】11月24日(金)  
【場所】TOKYO TUC 問: 06-6312-8958  
【出演】Adam Birnbaum(Pf) 小山太郎(Ds) 井上陽介(B)  
ゲスト: 市原ひかり(Tp)

## レナード衛藤

### レナード衛藤プロデュース・ライブ Planet "Leo"

機が熟すまでレナード衛藤が暖めていた「音の世界」—それは、ひとつひとつの音が入念にアレンジされているだけでなく、生き物のように太鼓の生音と混ざり絡み合う音の群れ。立体感と臨場感を持ったそのステージは音の生態系。



- 【日時】11月25日(土)  
open 18:00 start 18:30  
11月26日(日)  
open 16:30 start 17:00  
全席指定 ¥5,800  
※未就学児のご入場はご遠慮願います。
- 【場所】青山・草月ホール  
【出演】レナード衛藤(太鼓) / 菊地英二(ドラムス) / 押鐘ストリングカルテット  
押鐘真之(バイオリン) / 杉山由紀(バイオリン) / 番場かおり(ピオラ)  
森谷佳奈(チェロ) / 鬼怒無月(ギター) / 早川岳晴(ベース)  
長山善洋(ストリングスアレンジ)
- 【発売所】発売中  
イープラス <http://eplus.jp/leo-eto/> (PC / 携帯)  
チケットぴあ  
0570-02-9999 / 0570-02-9966 (Pコード: 240-627)  
【問合せ】公演事務局(イープラス) 0570-06-9939  
レナード衛藤オフィシャルサイト <http://www.leoeto.com>

## 中村健吾NYクインテット

### "Re: Standards" ツアー

- 【日時】11月22日(水)  
【場所】大阪 Jazz on Top tel: 06-6341-0147
- 【日時】11月24日(金)  
【場所】神戸 Satin Doll tel: 078-242-0100
- 【日時】11月25日(土)  
【場所】四日市 アソシエード第一 KAIEN'S ROOM tel: 059-323-1233
- 【日時】11月27日(月)  
【場所】京都 RAG tel: 075-255-7273
- 【日時】11月28日(火)  
【場所】横浜 Motion Blue tel: 045-226-1919
- 【日時】11月29日(水)  
【場所】名古屋 Doxy tel: 052-242-1227
- 【日時】11月30日(木)  
【場所】静岡 Koln tel: 0545-52-0468
- 【日時】12月1日(金)  
【場所】東京 Body & Soul tel: 03-5466-3348
- 【日時】12月2日(土)  
【場所】東京 Body & Soul tel: 03-5466-3348
- 【日時】12月3日(日)  
【場所】館林 文右衛門ホール  
チケットぴあ: Pコード 242-537 tel.0570-02-9999
- 【出演】中村健吾(b) マーカス・プリンタップ(tp)  
ウェス・"ウォームダディ"・アンダーソン(as)  
海野雅威(p) 高橋信之介(ds)
- 【総合問合せ】55Records tel.03-5785-2357

## sgt.

- 【日時】11月28日(火) open 18:00 start 18:30  
前売り¥1,800 当日¥2,300 +1ドリンク  
【場所】Osaka unagidani Sunsui tel: 06-6243-3641  
【出演】kacica / clione-index / honey delete you psycho / sgt.

### sgt. presents 『生命』 vol.12

- 【日時】12月1日(金) open 18:00 start 19:00  
前売り¥2,500 当日¥2,800 +1ドリンク  
【場所】Aoyama 月見ル君想フ tel:03-5474-8115  
【出演】The World Heritage  
(勝井祐二, 鬼怒無月, ナスノミツル, 吉田達也) / sgt.

### sgt. presents 『生命』 vol.13

- 【日時】12月17日(日) open 18:00 start 19:00  
前売り¥2,000 当日¥2,300 +1ドリンク  
【場所】Shimokitazawa ERA tel:03-5465-6568  
【出演】54-71 / Fresh! / sgt.



## disques corde and Onsa presents moxa

2006年の締めくくりにふさわしく、ベルリンからエレクトロニック・ダブ・マスター POLE、ロスからブレイクビーツの魔術師 NOBODY を招いて、パーティー "moxa" 開催! POLE 初来日時に唯一出演した日本人 DJ である DJ KENSEI も久々にこのシーンに登場! POLE のレーベル ~scape よりワールドワイド・デビューを飾った CAPPBLACK、リセット&リスタートとなるベスト・アルバムを発表した白石隆之の二組のリリースを記念するパーティーでもあります。SALOON でも RIOW ARAI らの強力メンツがサポートする注目の一夜!

- 【日時】12月23日(土) open/start 23:00  
前売り¥3,500 当日¥4,000
- 【場所】UNIT (東京・代官山)  
【出演】UNIT  
LIVE: POLE / NOBODY / CAPPBLACK  
DJ: DJ KENSEI / 白石隆之  
SALOON  
LIVE: INNER SCIENCE / CONFLICT  
DJ: RIOW ARAI / AZZURRO / TEN
- 【発売所】発売中  
チケットぴあ 0570-02-9999 [P] 245-275  
ローソン 0570-084-003 [L] 35800  
excite [EX] X00703  
e + <http://eplus.jp/sys/main.jsp>  
▶ store  
Onsa / CISCO TECHNO / WARSZAWA / JET SET 下北沢店  
diskunion 新宿 CLUB MUSIC SHOP  
【問合せ】CORDE INC. 03-3462-7161 info@corde.co.jp  
ONSA RECORDS 03-3462-7179  
[http://www.unit-tokyo.com/schedule/archives/2006/12/disques\\_corde\\_a\\_1.html](http://www.unit-tokyo.com/schedule/archives/2006/12/disques_corde_a_1.html)

## T-SQUARE

### YEAREND SPECIAL 2006 ~ 2007

- 【日時】12月22日(金)  
【場所】神戸 WYNTERLAND tel: 078-252-8030
- 【日時】12月23日(土)  
【場所】神戸 WYNTERLAND tel: 078-252-8030
- 【日時】12月24日(日)  
【場所】神戸 WYNTERLAND tel: 078-252-8030
- 【ゲスト】12/22 宮崎隆陸 (SAX, EWI)  
12/23 田中豊雪 (BASS)  
12/24 和泉宏隆 (KEYBOARD)

### COUNTDOWN LIVE 2006 ~ 2007

- 【日時】12月31日(日)  
【場所】天王洲 銀河劇場 tel: 03-5769-0030  
【ゲスト】田中豊雪 (BASS) 和泉宏隆 (KEYBOARD) 宮崎隆陸 (SAX, EWI)  
オフィシャル HP [www.tsquare.jp](http://www.tsquare.jp)

## LIVE 情報

- 【日時】11月24日(金) open 19:00 start 20:00  
前売り¥3,000 当日¥3,500 各 + ドリンク別  
【場所】池袋 ROSA tel:03-5956-3463  
【出演】渋谷知らズオーケストラ  
<http://www.live-inn-rosa.com/>
- 【日時】11月27日(月) open 18:00 start 19:00  
¥2,000+ オーダー  
【場所】名古屋なんや tel:052-762-9289  
【出演】高岡大祐 (tuba) 照喜名俊典 (eu.tb) 白井康浩 (g)
- 【日時】11月29日(水) open 18:00 start 19:00  
予約¥1,500 当日¥1,800  
【場所】名古屋 K.D.Japon tel:052-251-0324  
【出演】小野良子オーケストラ  
<http://www2.odn.ne.jp/kdjapon/>
- urban song collection 2006 ~ウタウタ、ウ vol.5  
【日時】12月5日(火) open 18:00 start 19:00  
前売り¥2,500 当日¥3,000 + オーダー  
【場所】名古屋 Tokuzo tel:052-733-3709  
【出演】渡辺勝 (vo.p) 船戸博史 (b) 吉田悠樹 (二胡) 青木隼人 (g) 白井康浩 (g)  
ゲスト: 松倉如子 (vo) 三村京子 (vo.g) 西本さゆり (vo)  
<http://www.tokuzo.com>
- 【日時】12月13日(金) start 20:00  
¥1,200+ オーダー  
【場所】高円寺 GOODMAN  
【出演】白井康浩 (g) 鈴木茂流 (永久持続音)  
<http://apaches.hp.infoseek.co.jp/goodman/>



© NAMI OGATA

**Jazz of LIFE**  
シカゴと夜と音楽と

連載 vol.8

## Von Freeman Way

text by 尾形奈美

ヴォンの話は何度か書いたけれど、今回もヴォンの話をさせてほしい。息子のチコのほうが有名かもしれないが、シカゴのサウスサイドを語るには、どうしてもヴォンが外せない。ヴォンが生まれた1922年というのは、Louis Armstrong がシカゴにやってきた年でもある。ブルースにしても、ジャズにしても（そんなジャンル分けすらなかった時代だろうけど）、歴史本に必ず出てくる”South Side of Chicago”。そんな、ジャズの産声と共に生まれたヴォン。ある日、New Apartment Lounge のギグの後、ヴォンや常連さんと一緒にカウンターで飲んでいたら、どんな話の流れだったか忘れてたが「僕が子どもの頃、ルイがうちに泊ってたよ」と話し始めた。ルイって誰？ お友だち?? まさか…と思ったらやっぱりサッチモの話だった。ヴォンのお父さんは警官で、トロンボーンも吹いていたから、ルイとは友だちだったらしいのだ。

ジャズ、酒場、警察…そんな混沌とした時代の話である。

ヴォンは、17歳の時 Earl Hines にツアーに参加しないかと誘われたが、断って地元の高校に行った（同じくシカゴ出身の Nat King Cole とは、学年はズレたが学校が一緒だったらしい）。戦後は兄弟の George や Bruz と共に、Charlie Parker や Dizzy Gillespie と演奏を重ねた。NY に出ればそれなりの名声も得られた。けど、シカゴにこだわった。

その真意は分からないけど、割と最近まで100歳を越すお母さんの面倒を見ていたので、すぐく家族思いだったのかもしれないし、ヴォンほどの人がなぜ若者サイドマンを選ぶのかと聞いた私に「僕が選んだんじゃない。彼らが僕を選んでくれたんだ」と答えるので、本当に名声に興味になかったのかもしれない。何はともあれ、フランスに呼ばれようが、NYで

レコーディングだろうが、毎週火曜のサウスサイドには必ず現われる。それも自分はギャラをもらわないとか。写真は、そんなヴォンの地域貢献をたたえて、2004年に75番街が Von Freeman Way と名づけられた日の一枚。

こうして脚光を浴びても「僕が有名になったのは特別だからじゃない。偶然。周りにいる皆のおかげなんだ」と語るヴォン。そんなヴォン爺さんとバーカウンターに座り、彼の昔話をワクワクしながら待つのが、私の幸せの瞬間なのである。

■尾形奈美 宮城隈仙台出身。写真家。2002年 Chicago Jazz Festival に連動して HotHouse Picture Jazz 展に招待出品以来、シカゴを中心に活動してきた。03年、米国の写真雑誌「Photo Review」の国際写真コンテストにて第3位を受賞。今年2月仙台にて初の個展。

<http://www.chicagojazzphotos.com>